

関東学院 学報

KANTO GAKUIN NEWS No. 36 2008.9



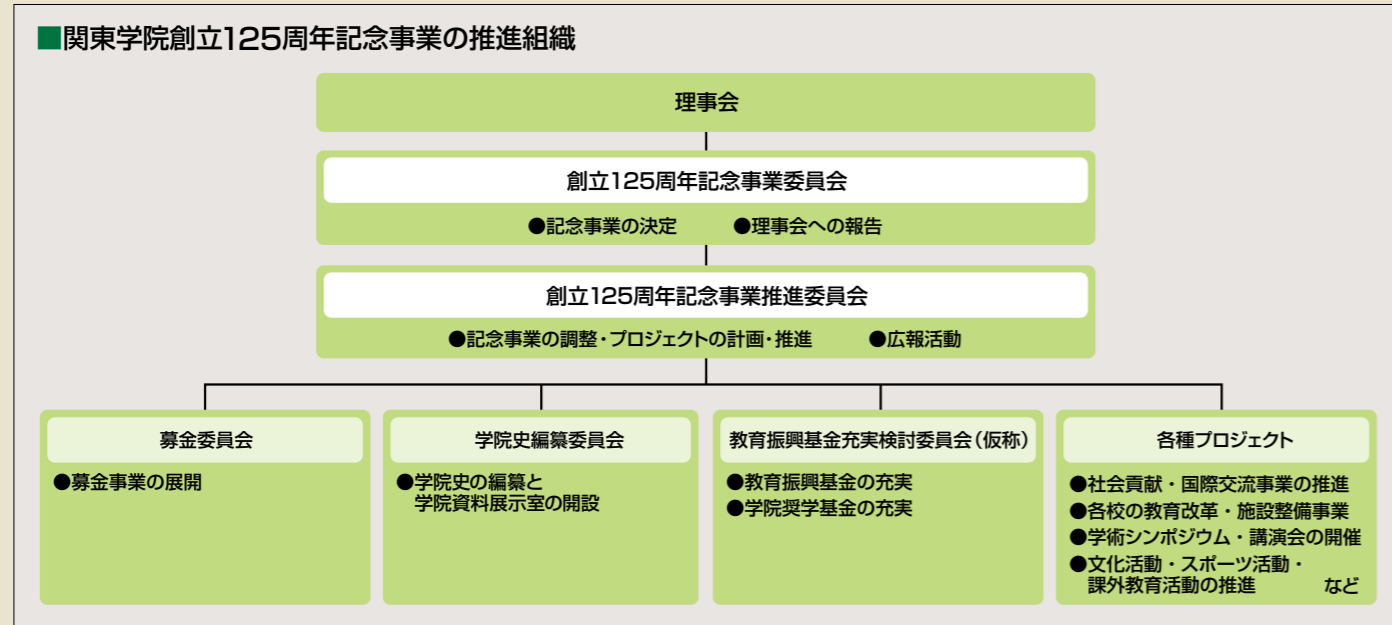
北京オリンピック セーリング競技日本代表選手
小菅寧子選手、飯島洋一選手、富澤 慎選手

Kanto Gakuin 125th Anniversary Project
 Kanto Gakuin's 125th Anniversary Project is based on the concept, "For the first step for Kanto Gakuin following a 125-year history" with "Serve the World 21" as its basic theme. It is our hope to comprehensively enhance the educational capacity of Kanto Gakuin through these events and projects. Also, we deeply appreciate the participation of many in entering design ideas for our symbol mark and mascot. We have selected prizewinners from among the 208 entries. Those who won the prizes will be announced at the anniversary event and on our website.

創立125周年記念事業

関東学院創立125周年記念事業は、「関東学院125年の新たな一歩にむけて」をコンセプトとし、「Serve the World 21」の基本テーマの下に、学院の教育力を総合的に高める記念事業を推進していきます。

2008年4月から次の組織(下表)で推進するとともに、創立125周年記念事業推進室を設置いたしました。



祝祭コンサート ～プレコンサート～

【日時】2008年10月6日(月)
 18:20 開場 19:00 開演
 【会場】横浜みなとみらいホール 大ホール

プログラム

J.S. バッハ トッカータとフーガ 二短調 BWV565
 L.V. ベートーヴェン 交響曲第7番 イ長調 OP92
 J.S. バッハ 無伴奏ヴァイオリンのためのパルティータ
 第2番 二短調 BWV1004 より シャコンヌ
 W.A. モーツァルト 戴冠ミサ K.317

アーティスト

指揮: 金 昌国
 オーケストラ: アンサンブル of トウキョウ
 合唱: 関東学院創立125周年記念祝祭合唱団

チケット(全席指定)

一般: 2000円
 教職員・卒業生・保護者: 1000円
 生徒・学生: 無料

※詳細は、創立125周年記念事業推進室まで(☎:045-786-7100)

インターナショナル・シアターカンパニー・ロンドン (ITCL) 第31回日本公演

英語劇『カンターヴィルの幽霊』
 (オスカー・ワイルド原作)

【日時】2008年11月20日(木)
 17:30開場 18:00開演(予定)
 【会場】金沢公会堂
 (横浜市・金沢区総合庁舎内)
 ※日本語による字幕付き

チケット

一般: 1000円
 (関東学院各校の学生・生徒は無料)

詳細は、関東学院大学文学部庶務課まで
 (☎:045-786-7179)

学院シンボルマーク&イメージキャラクターコンペ結果

この度は皆様からたくさんのご応募をいただき、誠にありがとうございました。

選考委員会による厳正な審査の結果、応募総数208作品(A部門:127作品、B部門:81作品)の中から入賞作品を選定しました。

入賞者の表彰並びに学院シンボルマーク及び学院イメージキャラクターの公表は、2008年10月11日(土)に挙行予定の学院創立記念式典にて行います。

なお、学院シンボルマーク及び学院イメージキャラクターは、記念式典以降に学院ホームページ上でも公表いたします。



リンピックでの抱負を語っていた皆さま。続いて、松井和則部長、大学ヨット部OBであり、神奈川県セーリング連盟会長の貝道和昭氏並びに燦葉会長の永嶋孝彦氏から激励の挨拶がありました。

また、オープニングとエンディングには、小菅選手の母校でもある六浦小学校トランペット部隊による演奏で壮行会が盛り上がりました。引き続き、同キャンパス12号2階に場所を移し懇親会が行われました。懇親会では、内藤幸穂理事長、森島牧人学院長、松井和則大学長並びに燦葉会長の永嶋孝彦氏より、それぞれ3選手に対し激励品が贈られました。また、出席した卒業生のリードにより

北京オリンピックのセーリング競技に日本代表選手として出場する本学院卒業生 飯島洋一氏、小菅寧子氏、富澤慎氏の壮行会が、大学主催・燦葉会(同窓会)協賛により6月14日(土)に大学金沢八景キャンパスSCC4階ベネットホールにて行われました。



校歌斉唱の後、選手に対してオリンピックでの健闘を祈りエールをおくりました。セーリング競技の試合は青島国際帆船センターにおいて、8月9日から21日までの期間に予選、決勝が行われました。3選手へのご声援ありがとうございました。



Send-off party for KGU graduates participating in the Beijing Olympic Games

A send-off party for Yoichi Iijima, Yasuko Kosuge, and Makoto Tomizawa, Japanese representatives in the sailing competitions in the Beijing Olympics, was held on June 14, Saturday, sponsored by KGU and cosponsored by Sanyoh-kai at Bennett Hall on the fourth floor of SCC on the Kanazawa Hakkei Campus. The three athletes expressed their determination to do their best at the Olympic Games. In response, President Kazunori Matsui, Mr. Kazuaki Kaido, a former member of the KGU Yacht Club and President of Kanagawa Prefecture Sailing Federation, and other guests gave words of encouragement to them. Following the send-off party, a banquet was held where gifts to encourage the athletes were presented by Sachiko Naito, Chair(man) of Board of Trustees, Rev. Makito Morishima, Chancellor, and other guests. At the end of the banquet, all the participants sang the school song and cheered the three athletes, wishing them the best of luck.

セーリング競技 大会結果

■レーザ級 飯島 洋一 選手 35位

(大学経済学部2000年度卒業)

■RS:X級女子 小菅 寧子 選手 13位

(六浦小学校-六浦中学校・高等学校-大学文学部1996年度卒業)

■RS:X級男子 富澤 慎 選手 10位

(大学人間環境学部2006年度卒業)

本学院卒業生 北京オリンピックピック出場 壮行会・懇親会開催

関東学院学報 No.36 <目次>

CONTENTS

本学院卒業生北京オリンピック出場 壮行会・懇親会開催	1
創立125周年事業報告	2
関東学院小学校校長就任挨拶	3
小学校新校長 名取俊夫	
キリスト教教育活動	4
関東学院の源流を探る—28	5
本学/元工学部長 秋葉隆吉 先生	
建学の精神を生きる「卒業生に聞く」	9
社団法人 横浜青年会議所理事長/ (株)ロイヤルホール常務取締役 板橋由紀 氏	
「人文科学研究所」近況報告	11
KGU研究活動の最前線	12
関東学院各校NEWS	13
同窓会だより	19
学院役員・教職員人事	21
生涯学習センター講座紹介	24
主な学校行事予定(10月~3月)	25

関東学院小学校校長就任にあたり

名取俊夫

Toshio Natori



私は1982年4月1日に関東学院小学校に就職いたしました。以来、担任として21年間、教頭として5年間勤めてまいりました。校訓「人になれ 奉仕せよ」とともに歩んだ26年間でもありました。関東学院小学校校長の職を拝命するにあたり次のことを念頭に置き職務に励みたいと考えています。

一つは、教職員が現在持っている「和」であります。一つの方向にともに進んでいこうとする今の雰囲気は今後も大切にしていきたいです。

「あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者になり、いちばん上になりたい者は、すべての人の僕になりなさい。人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人の身代金として自分の命を献げるために来たのである」(マルコによる福音書10:43-45)

私たち教職員がお互いに仕え合っている姿勢を持つことが求められています。一つのクラスで起こった問題を全教職員が知り、共通理解のもとでバックアップできる態勢がとれるようなチームワーク

が組めたら素晴らしいことです。

そのためには、関東学院小学校で働くすべての者が主に在って信頼し合っている集団でなければならぬと思っております。一人の児童のことで、教職員が協力体制をスムーズにとることで児童を大切にしたい教育ができると確信しています。

次に、児童にとって基礎学力を確実に身に付けさせることです。そのために、教師は、一人ひとりに力のつく授業を展開しなければなりません。どう授業を展開させたらよいか、児童の力を伸ばすにはどうすればよいか教師自身研鑽を積みむことが必要になります。

教師が授業の技を磨くことで、児童にとって力が付く授業が展開できることになるからです。

もう一つは、児童の心を育てる学校づくりをしたいと考えています。

最近、私は児童と話をしていてうれしくなることがあります。児童の言葉の中に児童の心、気持ちを感じることがあるからです。

例えば、私が保健室に向かう児童と会

い「お大事にね」と言葉を掛けました。すると「ありがとうございます」と言葉が返ってきました。

また先日、帰宅しようとしている児童に「気をつけて帰るのだよ」と声を掛けると「ありがとうございます。先生もね」と返事が返ってきました。

これは、言葉のやりとりではありませんが、気持ちのやりとりでもあります。教師と児童との会話や児童同士の会話の中に、いたわりの言葉、なぐさめの言葉、励ましの言葉など相手を思いやる言葉を使える児童を育てることがとても大切であると思います。

関東学院小学校は主イエス・キリスト

を土台に据えた学校であります。聖書をよりどころとして物事を考えられる子どもを育てるとともに相手を思いやる温かい心を持つ子どもを育成をはかりたいと考えています。

このような学校にしていくなには、父母の会の方々のご理解とご協力がなければ成り立っていきません。また、創立以来55年間、たんぼの会（同窓会）のお支えいただきながら歩んできました。今後、も、父母の会、たんぼの会の支援をいただきながら教育活動を進めてまいります。

微力ではありますが、誠心誠意努めて参りたいと思っております。

Appointment as Principal of Kanto Gakuin Primary School: Toshio Natori
I have been teaching and serving at Kanto Gakuin Primary School since April 1, 1982 – 21 years as a homeroom teacher and five years as vice principal. For the last 26 years, I have always lived by the school motto “Be a man and serve the world.” I am honored to receive my appointment as principal. To pursue my role as principal, I would like to maintain “wa, or harmony” that has already been achieved among our faculty and staff members. There is a cooperative atmosphere among them, with each member possessing a desire to reach the same goal. I would like to make every possible effort to perform my duties.

と]と統一して表記することとした。

次に、創立記念週間の件である。従来は、創立記念日である10月6日を含む一週間を創立記念週間と見なして、その間にさまざまな行事を開催してきた。ただ、年度により日程が変わるので不都合なこともあった。そこで、学院宗教主任会議での協議も踏まえて、今年度から、創立記念日である10月6日から10月12日までの一週間を創立記念週間として固定することとした。これは、学院の第一の源流である横浜バプテスト神学校の初代校長ベネット博士の召天日がちょうど10月12日であることを考慮したものである。

さらに現在、学院の第二の源流として、1895年9月10日に東京築地居留地42番に設立された東京中学院の記念碑を建立する作業を、創立125周年記念事業のひとつとして推し進めている。周知のように、築地居留地は立教大学や明治学院をはじめとして多くのミッション・スクールの発祥の地である。この築地居留地を発祥の地とする学校のひとつがすでに記念碑を建立している。近年では、昨年10月に立教女学院が、本年3月には青山学院が源流のひとつである「海岸女学校」の記念碑を建立した。そして現在、ミッション・スクールの中で、まだ記念碑を設置していないのが関東学院などごくわずかの学校だけである。

また、これは創立125周年事業にかかわるものではないが、今年も例年のように「関東学院教員合同研修会」を計画している。今年度は8月25日(月)三春台校地、関東学院中学校高等学校を会場に開催される。この研修会は必ずしもキリスト教行事ではないが、学院各校の教員が学院共通の課題について学び、交わりを深めるとともに、学院の伝統、建学の精神、校訓についても学びを深める機会となっている。今回も、多くの参加者を得てよい学びのとき、交わりのときとなることを期待したい。

キリスト教教育活動—創立125周年記念事業を中心に

学院宗教主任 帆苺 猛

来年、2009年10月6日で、関東学院の第一の源流である横浜バプテスト神学校が創設されてから125周年を迎える。記念事業はもうすでに、学院ばかりではなく、各学校においてもさまざまな分野で幅広く展開されている。ここでは学院全体にかかわること、その中でもとくに学院の歴史や建学の理念、キリスト教にかかわることを紹介したい。

まず、現在精力的にすすめられているのが『関東学院125年史』の作成である。100周年の折に大部の『関東学院百年史』が出版された。この部分については、短く圧縮する形でまとめ、それ以後の25周年の歩みを新たに付け加えて出版する事にしている。

また、前学院宗教主任、高野進名誉教授が『関東学院学報』に連載された『関東学院の源流を探る』も、創立125周年記念事業のひとつとして、まとめて単行本として出版する運びとなっている。これは、関東学院に関係し、関東学院の歴史を支えてきた宣教師や日本人教師を人物ごとに取り上げて、その生涯や人物像、関東学院とのかかわりを述べたものである。

このほかに、これも創立125周年記念事業のひとつとして、関東学院の歴史を顧みつつ、現在の学院の各学校の様子を紹介し、将来を展望するDVDの制作を進めている。この中には、各学校の校歌も収める予定にしている。

これ以外の出来事で、まず報告すべきことは、学院の出発点となった横浜バプテスト神学校の初代校長Albert Arnold Bennett博士の名前の日本語表記についてである。従来は、「ベネット」とも「ベネット」とも表記されてきた。この名前は学院の施設の名称などでも用いられてきた。一人の人物に二つの表記が混用されるのは好ましいことでない。この件については、博士自身がはっきりと「ベネット」と日本語で言い表されていたことなどから、「ベネット」と表記することが望ましいと考え、理事会などの手続きを経て、正式に「ベネッ

Christian education activities – the 125th Anniversary Events and Projects
October 6, 2009 will mark the 125th anniversary of the foundation of KGU. Currently, a major effort is focused on preparing the “125-year History of Kanto Gakuin.” In addition, the serial articles “Genryu-o-saguru (A quest for the headwaters)” in this booklet will be compiled to be published in book form. A DVD that introduces the present and future outlook of Kanto Gakuin schools is also being produced. Another anniversary project is the construction of a monument on the site where “Tokyo Chugakuin” was originally established. The then address was Kyoryu-chi 42, Tsukiji, Tokyo.

秋葉隆吉先生

Ryukichi Akiba (1901-1968)

本学／元工学部長



秋葉先生

専門学校から新制大学へ

1927(昭和2)年に関東学院は東京学院を併合して、中学部、高等学部、神学部をもって所期の目的を達成し、安定した発展が期待されていた。しかし時代の流れは関東学院を翻弄した。

1938年に「国家総動員法」が公布された。この法律によって政府は戦時または事変に際して、人的・物的資源を統制・動員することができるようになった。1941年には「学校報国団結成指令」が出された。さらに1943年には「学徒戦時動員体制確立要綱」がつけられた。こうして学生の勤労動員の強化が行われていった。学生の徴兵猶予も停止され、「学徒出陣」が始まった。同年10月には「教育ニ関スル戦時非常措置方策」の閣議決定に基づいて、当時の文部省は「学校整備要領」を公表し、文科系の大学・専門学校、青山学院の文学部と高等商業部、関東学院の高等商業部、明治学院の高等学部と高等商業部が明治学院専門学校に統合するよう指導勧告を受けた。こうして関東学院高等商業部からは、高谷道男教授が明治学院に移った。2年と1年の学生155名が明治学院に転入した。この後、戦時体制の中で、関東学院としては航空工業専門学校を設立することにした。1944年5月に航空工業専門

学校が正式に発足した。同じ1944年には三春台の校地にビクターの工場が疎開してきて、防空通信機材の製造が行われることになった。学校の体育館は食糧営団の倉庫に徴用されて、米俵が積みこまれた。さらに明治学院に学生が移されてしまったために空いた高等商業部校舎には、日本軍の防衛隊が駐屯した。すべてが戦争に駆り立てられた末期的状態にあった。戦争が終わる直前の1945年には、航空専門学校校長であった白山源三郎先生も徴兵された。そのためその年の4月には、相川高秋先生が校長事務取扱いに任命された。

1945年5月29日には横浜大空襲があった。横浜大空襲による被害は甚大であった。横浜の町全体が焼け野原となった。当時のテンネー記念講堂と、木造校舎が焼失した。戦争が終わっても、残された校舎で授業を行うためには午前・午後の二部授業の体制を組まなければならなかった。

先生が学院に来るまで

秋葉隆吉先生は東京に生まれた。旧制第一高等学校を経て、東京帝国大学工学部船舶工学科に学んだ。1930(昭和5)年に卒業後、イギリス系デ・ハビランド特許事務所に勤務した。デ・ハビランド家はイギリスの名門で、そのジオフリー・デ・ハビランドは航空機の設計者・製造者である。その弟ウォルター・デ・ハビランド(1872-1968)が東京帝国大学で教鞭をとり、特許弁理士として特許事務所を経営していた。実は彼の二人のお嬢さんたちはアメリカで女優となった。オリーブ・マリー・デ・ハビラン

ドは映画「風と共に去りぬ」でメラニー役を演じた。

1932年に秋葉先生はその特許事務所から独立して、ご自身で特許事務所を開設した。しかし日本社会が戦争に突入する時代に入ってしまったためもあり、1938年5月に小島電気製鋼(株)蒲田工場長に就任した。その年から1941年まで、先生は母校の東京帝国大学工学部冶金学科を聴講している。1941年1月には、(株)日本電解製鉄所に入社し、技術課長、作業課長、研究部長を歴任した。後には同社小机工場長になっている。

秋葉先生が関東学院の教育に関わるようになったのは、1944(昭和19)年3月である。その年3月末をもって高等商業部が明治学院専門学校に併合されたため、関東学院としては航空専門学校を設立し、校長に白山源三郎先生が就任した。先生は日本電解製鉄所に在職のままその講師となった。

1945年8月に終戦を迎えた後、10月には航空専門学校は工業専門学校に転換した。12月には金沢八景の旧海軍の航空技術廠工員養成所の土地と施設の利用許可がおりた。1946年1月には工業専門学校が三春台から金沢八景に移った。4月には戦前の高等商業部が復活した経済専門学校も金沢八景に移った。1947年4月に秋葉先生は関東学院工業専門学校専任教授となっている。

1949年4月に新制大学(経済学部・工学部)が設立されるにもなって、工学部長、同教授となられた。

先生の貢献

初代の工学部長秋葉隆吉先生は、今日を出すに至りましたことは、その当然の帰結とは云え喜ばしい限りであります。」この文章の中には、ご苦労が少しずつ報いられている喜びが滲み出ている。ご苦労があつてこそ、喜びがひとしおなのである。

秋葉先生は、1957年1月19日発行の『キリスト新聞』にも「工学部十年の歩み多年の『宿願今ぞ実を結ぶ』と題して記事を執筆しておられる。これを村上昇一本学名誉教授が「秋葉隆吉先生を偲ぶ」のエッセーの中で引用しておられる。

「関東学院が工業教育を志したのは、遠く二十有余年の昔に遡る。当時我国に於ける工業技術の重要性に比し、これに携わる人少なく、これら技術者を養成する教育機関もまた寥々たるものであった。特に基督教的人格素養を身につけた技術者の育成機関は、ほんの一、二を数えるに過ぎなかつた。学院長坂田祐氏及当時の商学部長白山源三郎氏(現学長)はこれを憂え、早くから本学院に工業教育機関設置の考えを漏らしていたが、たまたま太平洋戦争勃発と共に当時漸く重きを加えて来た関東学院高商部を、航空工業専門学校として転換を命ぜられたのを契機として多年の抱懐を茲に実現すべく、昭和十八年横浜市南区三春台に、旧高商部の教室設備を利用し、図書設備、教授陣容の充実を図ると同時に、郊外の隣接地に螺子製造工場を設置し以て工業教育の一環とした。翌十九年には更に磯子区杉田栗木町に機械工場二百坪を買収増設したのである。これは工業教育が基礎知識の推論的蓄積ばかりでなく、応用技術の実際の訓練を是非必要と見たからで、当時、文科系学校の工科系への転換に際

53、4) 諺に「十年一昔」と申しますが、人事はおよそ、十年を一区切り、一節として省みるのが、相応しいものなのでしょう。今、私共工学部満十年の歩みを振り返って見ると、いよいよ、その感が深いものを覚えます。

戦後の、慌ただしい情勢の中で、新設された、多くの私立大学の例に洩れず、私共の工学部も、資金、施設、設備の何れも、充分とは申せず、教授組織も研究助手も手薄く、おまけに学生数も少なく、まことに、心細い限りでありましたが、それでも、キリスト教主義学校に於ける工学部を、盛り上げようとする意欲は、全教授団を通じて、極めて旺盛で、青山学院大学工学部の併合、続いて研究室の研究に、弛まぬ努力と忍耐とを重ねて参りました。工学部研究報告第一号が発行されたのは、実に、この灰燼の中から、と申すことが出来ます。

一方、工学教育研究の実践場としての実習工場には、生産を手掛けて参りましたが、矢張りこの間、幾多の筆舌に尽くし得ぬ困難を嘗めさせられました。が、遂にその努力忍耐も報いられて、今では、工作、鍍金、塗装工場として、工学部経営の一端を担つて余り有る程に事業化し、私学経営難緩和の一模範例を、我国教育界に呈示しております。

これと呼応して、私共工学部教授スタッフの研究も、いよいよ、活気を加え、例年の研究発表会も、逐次盛大となり、従つてまた、その『研究報告』も、年と共に充実増大して参りました。今ここに、工学部創立十周年を記念して、『記念号』

の工学部発展の推進力となられた。

1948年の学制改革にともない、新制大学工学部の設立準備のために、先生は先ずよき教授陣の充実のために東京大学、東京工業大学、各研究所、大企業を連日訪問し、教授の派遣をお願いした。

先生は機械工学科教授として、機械製作法を教えられた。とくに先生は「工場と直接する機械工学」「生きた生産工学」を目標としていた。このため先生は実習工場として、これまでの工専施設を利用して講義授業や実習をすすめられた。さらに責任ある立場上、図書、設備拡充整備など大きな計画の立案と具体化、毎日の処理事項、授業、研究、これに加えて実習工場(現関東化成工業)の工場長としての職務のために、毎日目の廻るような忙しさであった。先生は鶴見の自宅からは通いきれず、実習工場前に建っていた元倉庫の木造平屋にあった機械工学科教員控え室に古いベッドを持ち込んで、一週間のうち二日ないし三日はそこに泊まって、夜遅くまで仕事をしておられたという。一流企業から転進された先生にとつては低い待遇にもかかわらず、教育に情熱を注がれた。大学工学部発足当時から、秋葉先生は実験系教育を重視した。学生時代にこれを体験した宮武俊弘教授はこう記している。

「工学の原点は『物を作る』ことを学ぶことであり、学生はより良い物を作るための学問ならびに技術を修得することにあり、実技科目(実験系、実習系、設計製図系)を特に重視したものであったと思われる。」(本学工学部機械工学科「四十年の歩み」)

文部省に提出した「設置認可申請書」

の「目的及施設」の項目には、次の文言がある。「工学部の経営の容易でないのを推して設置する所以は、技術者教育に高き精神的基礎の要望されるに依る為である。又一つは、将来我国は工業立国の他なきを信じ、其の為には多数の技術者を養成せねばならん国家的必要に対処する為である。」

1961年3月27日付の『日本工業新聞』に当時の白山源三郎学長は、工学部の教育の特色として人格教育を重要視していることを強調している。これは上記の「目的及施設」に添つものである。「工学部はキリスト教大学として、独自の立場に立ち、人格教育を重視して、深い精神的基礎に立つ技術者を要望する時代の声にこたえようとしている。今のような激しい技術革新の時代にあつては、大学で専門技術の先端までの修得は不可能であることを反省し、それよりも豊かな創造性や科学的思考力こそ重視しなければならぬことを鑑みて、全国に先駆けて工学基礎科目を設け、産業界に入つて広い視野から問題解決能力を発揮する技術者の養成につとめている。」

工学部設立10年にあつて

秋葉先生は1959年に工学部設立10年を記念して、「工学部十年の歩み」と題する文を残した。

工学部十年の歩み

「然のみならず患難をも喜ぶ、それは患難は忍耐を生じ、忍耐は練達を生じ、練達は希望を生ずと知ればなり」(ローマ書

I N T E R V I E W
建学の精神を生きる「卒業生に聞く」

「横浜の街と、ともに歩み、ともに発展」

社団法人 横浜青年会議所理事長
(株)ロイヤルホール常務取締役 **板橋 由紀氏**
(聞き手 関東学院六浦小学校 校長 島田 正敏氏)



後輩の姿に昔の自分が見える

島田 小学校時代にトランペット鼓隊で熱心に練習していた板橋さんのことを指導教員として良く覚えていました。今日の後輩たちの歓迎演奏はいかがでしたか。
板橋 思いがけないお出迎えをご用意いただきありがとうございます。後輩の皆さんの姿に昔の自分の姿が重なって本当に懐かしかったですね。当時は保土ヶ谷から相鉄線乗り継いで1時間ほどかけて通学していました。トランペット鼓隊の練習は厳しかったんですよ。毎朝走り込みから始まって、足踏みの練習、トランペットの向きが悪いと田上先生にドラムのパチでビシッと打たれる、半べそをかきながら練習していました。

島田 熱心な先生がたばかりでしたからね。あの当時から指導して下さっていた山崎先生は、運動会の前や強化合宿時には今も指導に来て下さっています。
板橋 そうなんです。関東学院ではたくさんさんの思い出がありますが、中でもトランペット鼓隊にいた3年間は忘れ難い思い出です。島田先生はとても優しい先生でしたから、辛いことがあるといつも先生のところへ逃げ込んでいましたね。

島田 板橋さんは真面目で控えめな生徒という印象でしたが、男性が多い横浜青年会議所で理事長として活躍していらっしゃるの意外です。ところで先ほど現在の校舎を見ていただいたのですが、ご自分の通っていた頃と大分変わったと思われましたか。
板橋 私が在学していた頃も恵まれた環境だと思っていました。登下校安全管理

ここで常務取締役を務めています。従業員は600数十名お持ちして、幾つかの部門に分かれています。全体の広報的な仕事を担当しています。人間の「生き死に」に関わる仕事をしてまいりましたから、「人になれ 奉仕せよ」という言葉が実感として迫ります。奉仕せよという意味は単なるボランティア活動を指すのではなく、仕事でも社会に貢献できるし、どんな形でも人の役に立つというのは大事なことだと思えます。あと、横浜青年会議所では「明るい豊かな社会を築きあげる」ことをめざし、大きく分けて街づくりと人づくりの2つの運動を行っています。今、日本では教育が大きな問題になっています。私の理事長としての任期は1年ですが、この1年は「心つむぎ、一歩前へ」をテーマに、学校任せばかりではない家庭の中の教育、そして地域の大人としての子どもとの関わり



トランペット鼓隊の演奏



島田先生による校舎案内

理システムやコンピュータルームを見る時代の変化を感じました。学校が児童のセキュリティにここまで配慮されているからこそ保護者が安心して子どもを預けることができるのだと思います。それから礼拝堂のステンドグラスの素晴らしさに目を奪われましたね。

島田 あれは渡辺貞夫先生という方が描いた原画が基になっていますが、日本ではつくれないというのでフランスで制作したものです。礼拝堂にはいろいろな仕上げがあり、イベントに合わせた効果的な演出が可能になっています。映画館のスクリーン並みの大型プロジェクターも設置されていて、2005年12月に本校が国際ボランティアの一環として支援しているタイ国チェンマイの子どもたちと同時中継で交流会を行いました。双方の

を提唱しています。その実現のため、人づくりでは「はまっ子スクール」と銘打った子ども対象の多様な活動を、街づくりの代表的なものとして例年6月に開催される「横浜開港祭」に力を入れていきます。来年は開港150周年ですので、積極的に自分たちで自分たちの街のことを考え、自分たちでやれることをやろうという運動を展開して、メッセージを伝えていこうと思っています。

島田 板橋さんは本職でもそうですしボランティアにも力を入れて社会に奉仕されている、関東学院でこういう方が育つたことに誇りを感じます。来年は関東学院も創立125周年を迎えます。横浜と同じ時代をともに歩んできたわけですから、アニバーサリーの催しとして、青年会議所と協力して何かできると素晴らしいですね。
板橋 本当にそうできると良いですね。

A Personal Journey and Development with Yokohama
A performance from the trumpet and drum corps of the primary school welcomed Ms. Yuki Itabashi, who spent her primary, junior and senior high school days at Kanto Gakuin. Principal Shimada then took Ms. Itabashi on a tour around the new school building. In the interview following the tour, Ms. Itabashi, the second female 2008 President of the Junior Chamber International Yokohama, talked about activities of the Junior Chamber, including a project focused on preparation for the 150th anniversary of the opening of Yokohama Port. In conclusion, she and the principal talked about a possible cooperation between the Junior Chamber and Kanto Gakuin, both of which have been developed over the course of the same era.

積極的に自分たちの街を考える

島田 現在のお仕事などについて伺えますか。
板橋 家業が冠婚葬祭業なので、私はそ

仕活動までと話が弾みました。特に、女性で2人目という横浜青年会議所の理事長を務められている板橋さんが、現在進められている活動や横浜開港150周年に向けて意欲的に展開されている活動は、横浜とともに発展してきた関東学院と協働の可能性へと話題は膨らみ対談は終了しました。

対談後記
小・中・高時代を関東学院で過ごし、小学校時代はトランペット鼓隊で活躍された板橋さんを現小学校トランペット鼓隊が生演奏で歓迎。演奏に聴き入っている板橋さんの懐かしそうな表情が印象的でした。その後、島田先生の案内で現在の校舎を一巡して始まった対談は、当時の思い出から校舎の変化、板橋さんの仕事や奉

板橋 由紀氏 略歴

- 【学歴】
昭和56年3月 関東学院六浦小学校卒業
昭和59年3月 関東学院六浦中学校卒業
昭和62年3月 関東学院六浦高等学校卒業
平成3年3月 玉川大学文学部 英米文学科理専攻卒業

- 【職歴】
平成3年4月 ワールドマンパワー株式会社入社
平成5年8月 ワールドマンパワー株式会社退社
平成5年10月 株式会社ロイヤルホール入社
平成17年9月 同社常務取締役就任



対談風景(左 島田先生、右 板橋氏)



小学5年生で参加した日中友好事業



当時の練習風景

子どもたちは大喜びでした。
板橋 関東学院は昔から国際ボランティアや外国との交流が盛んでしたね。私は5年生の終わりに日中友好協会主催の交流事業に参加して中国に行きました。この時、小学校5年生から高校3年生までの生徒が全国から集まったのですが、5年生は数人しかいなくて最年少での参加となりました。2週間、親元を離れて初めての海外でした。日中いろいろな場所へ出かけて取材し、子どもたちの目で見ただ中国を原稿にまとめ新聞をつくるのですが、原稿ができるまで寝られないのです。結構きつい作業でしたが、その時に自分が感じたことを文章にするという勉強をさせていただきました。私は何にも自分から能動的に行動するほうではなかったため、この交流会も両親の薦めで参加しました。でも良い経験ができたと思っています。

島田 運動会や自然学校、夏のトランペット鼓隊の強化合宿、行事は今とそれほど変わっていないと思いますが、行事で思い出はありますか。
板橋 それぞれが楽しくて大切な思い出です。私は小・中・高と関東学院で過ごし、



「人文科学研究所」近況報告

所長 西原 克政

人文科学研究所が設立されて今年でめでたく40年目を迎えた。人文科学研究所は文学部の専任教員から成り、所員会議で選出された所長のもとに、英語英米文学科・比較文化学科・現代社会学科の各学科委員会から選出された委員2名ずつ計7名で運営されている。

出版助成としてこれまで研究叢書と研究選書のいずれかの形で、毎年2冊の枠が設けられ、基本的には個人の研究成果がまとめられ、書物として刊行されている。これまで人文研叢書は29冊、人文研選書は7冊まで出版されている。(詳細については人文科学研究所のホームページに掲載されているので、そちらをご参照いただきたい。)今年度からは、これまでの叢書および選書という形態をやめて、通常の意味での出版助成に切り替えて、特定の出版社に固執しない、開かれた形の出版助成を目指している。人文科学研究所としてはあらたな試みを、40年目を節目に模索しているところである。

研究活動として研究助成や研究発表の公表のほか、講演会、シンポジウム、コーヒー・アワー、外部講師を招聘しての授業の活性化、研究図書資料収集、等の多岐にわたる活動を行っている。『紀要』は年3回刊行しており、これまで第1号から第112号まで、通常号、特別記念号、退職記念号、追悼号、等を発行してきた。そして人文科学研究所助成による研究報告が年1回、『人文科学研究所報』として刊行されている。現在、第31



Latest News from the Research Institute for Cultural Science
This year marked the 40th anniversary of the Research Institute for Cultural Science. The Research Institute for Cultural Science, consisting of appointed faculty members of the College of Humanities, offers publishing and research assistance programs, and organizes and sponsors lectures, symposiums, and other activities. Through the publishing assistance programs, 29 collected works and series and seven selections in the fields of Humanities and Culture Science have been published. In this and future years, unlike in previous years, research results will be made public through publishing companies specializing in the field in which individual authors (Research Institute's members) specialize. It is hoped that this new system will allow researchers to publish books in a wider variety of specialized fields with less limitation than before. The "Bulletin of the College of Humanities, Kanto Gakuin University" is published three times annually to provide researchers with opportunities to present their research activities. The latest issue is Volume 112. The "Transactions of the Institute of Humanities," a report on the research assistance programs, is published at the end of each academic year. Volume 31 is scheduled to be published soon. Lectures and symposiums held in recent years have mainly focused on Asian issues. In the 2006 academic year, three lectures and symposiums, including two large-scale symposiums, were successfully organized. Last year, however, none were held. The "Coffee Hour" is held at the beginning and the end of each academic year: the first one held to introduce new members and the second one held to honor retiring members. These gatherings provide valuable educational opportunities for the Research Institute's members. Those who have completed mid- and long-term overseas training programs also share their interesting experiences at this gathering. A series of the "University Lectures for Hayama Citizens," a joint program with the Hayama Town Board of Education, has contributed to enhanced relationships with local communities. Thirty-six lectures have been successfully presented thus far. As many as 80 ardent participants have filled the venue each time, greatly encouraging us to continue the event. The Poetry Center has its own unique activities. "Poetry Kanto," an annual poetry magazine in English published by the Poetry Center, is highly regarded in the USA. This center is well known among Fulbright researchers and fellows specializing in Japanese modern and contemporary poems as a research institute in Japan.

KGU研究活動の最前線 受託事業と研究開発

学術フロンティア推進事業を弾みとした環境配慮型研究の推進を



関東学院大学 工学部 建築学科 大塚雅之

企業研究開発での経験と競争的研究資金応募の継続を
外部資金獲得には、研究テーマが今のトレンドを捉えていること、さらには応募者がその分野で実績をあげているポイントになります。そのためには、たとえば、若手教員は企業での研究開発に接し、実社会での生きた研究開発を学ぶ機会を与えることなどが大切だと思えます。そこでの人脈作りや生きた実践技術の修得なども良い経験となるはずですが、また、科研費等の競争的研究資金獲得への申請は必須事項でありますし、打たれても懲りずに申請をし続ける根気が必要だと思えます。民間からの外部資金研究の募集も申請しやすいものも随分増えてきています。とにかく、継続して応募をすることが先ず大切だと思えます。そんな研究への姿勢と努力を大学は、支援することが重要だと考えます。

学術フロンティア推進事業に学ぶ競争的研究資金の獲得

平成16年度に文部科学省学術フロンティア推進事業として採択された「都市・建築のストック再生を目的とした環境共生技術の戦略的開発研究」は、本学としては本格的な競争的研究資金を得た第一号とも言えます。ここでは、都市や建築の維持保全、環境共生、防災と安全に主眼をおいた実践的な計画・設計と開発研究が展開されています。その目玉は、大学付置の研究施設であり築36年を経過した大沢記念建築設備工学研究所棟を、様々な環境共生技術と建築を統合し環境負荷削減型建築として再生させ、その効果を研究の一環として検証したことです。その計画、設計、施工、検証のプロセスの中では、



建設環境設備シミュレーションタワー

コスト面、設計・施工面、検証面での幾多の難問を解決し、実用性の高い一つの成果を得ることができたものと思っています。現実の計画設計と検証に、現在も教員、学生が挑戦しています。その結果として、社会的に高い評価受け、(社)空気調和衛生工学会振興賞・技術振興賞をはじめ多くの賞を受賞しました。既存のストックをリニューアルし、冒頭で述べた建設業の抱えるCO₂排出量の削減に対する一つの提言を行なったものです。それが呼び水となり、省エネルギー、省資源化、建物の長寿命化、維持管理といったテーマに対し企業は熱い視線を送っています。本学のように実践技術の研究を主軸とする大学では、実用性の高い企業ニーズにあった研究テーマを立ち上げて、資金参加を募るといった試みが必要であると思えます。また、教員もこのようなプロジェクトを通し、自分の得意分野を一步拡張させ、新しい研究テーマを発掘するスキルを自分に課し、5年後、10年後に向けた自己研究の種を蒔くべきだと思います。

エコキャンパスと地球温暖化防止に対する研究活動の推進を

われわれの生活空間であるキャンパスのエコ化への取り組みはとても大切な研究テーマだと思えます。学生のライフスタイルの把握と改善、倫理観の向上に向けて工学的な視点からトライすることも面白いと思います。学術フロンティアプロジェクトは、本学で一番小さな建物を環境に配慮した施設としてリニューアルさせることから始ま

りました。次世代を担う教員は、風穴を開けたこのプロジェクトのコンセプトを継承し、そのコンセプトを大学全体に発信すべきだと思います。競争的研究資金を獲得しキャンパスのエコ化研究に投資すること。実績を活用すれば、外部研究資金の獲得は、案外、手の届く範囲にあるかもしれません。基礎教育が重視される中、それだけでは教員のマインドは高揚しないのではないのでしょうか。学術フロンティアのプロジェクトで得られた知見を大学キャンパスの計画や施設計画などに応用できたならば、最先端の研究結果が教育を行なう空間において生きた教材として反映されます。本学の取り組みを社会にアピールできる有効な方法になります。大学に外部研究資金を呼び込み、新しい研究の展開を図るには、学術フロンティアなどの成果を生かしたエコキャンパス計画とその研究の提案、更にはその実現が格好のテーマのように思えます。

The Forefront of KGU research activities: Contract projects, Research, and Development

- Experience in corporate research and development, and continued applications for competitive research fund
- Academic Frontier Promotion Project - acquisition of a competitive research fund
- Eco-Campus and promotion of research activities to prevent global warming

地球温暖化問題が深刻化する中、今年7月に開催された先進国首脳会議・洞爺湖サミットでもCO₂排出量の削減とその実施に向けての対策が重要なテーマとして議論されました。われわれの研究分野においても地球温暖化防止対策や環境負荷削減を目的に、省エネルギー、省資源化といったキーワードを掲げた研究が重要視され、いわゆる外部資金の獲得に向けた研究や企業委託研究でもその点が強調されてきています。とりわけ、筆者の専門とする建設分野は、CO₂排出量が多く全産業の約35%を占めるといわれています。それだけに課題は山積されており、その解決策が研究開発のトレンドになっています。そんな視点から、研究受託事業と研究開発に対する所見を述べてみたいと思えます。

関東学院 各校 NEWS

大学

社会貢献学生 アクティビティ企画を採択

関東学院創立125周年記念事業として、学生企画及び教員参画による「社会貢献学生アクティビティ」(Students SSA)を3期に分け募集しています。

社会貢献学生アクティビティとは、今日において社会貢献とは何か、私たちはいまだどのような社会貢献ができるのかを問うものです。地域社会をはじめ国際社会での貢献、さまざまな分野での活動を対象に募集しています。

これまでに次のとおり、第1期5件、第2期4件を採択しました。なお、第3期の応募期限は、10月

31日までで、その結果発表は11月下旬を予定しています。

1期採択企画(2007年12月)

「久保ゼミ中国内モンゴル庫倫旗植林活動」

学生代表：野田 憲康(経済学部)
顧問教員：久保新一(経済学部教授)

「タイ北部産学少数民族生活向上支援ボランティア活動」

学生代表：池田 典陽(人間環境学部)
顧問教員：森島 牧人(文学部教授)

「ミャンマー連邦の第1次産業活性化のための技術支援」

学生代表：五十嵐 祐人(人間環境学部)
顧問教員：吉田 博(人間環境学部教授)

「開発途上国における生活環境整備に関する研究」

学生代表：井口 洋輔(人間環境学部)
顧問教員：角田 光孝(人間環境学部教授)

「劇・お話による子育て支援ボランティア活動」

学生代表：金子 亮太(人間環境学部)
顧問教員：大豆生田 啓友(人間環境学部准教授)

2期採択企画(2008年6月)

「やめないでECO!!」

学生代表：岩下 誠大(人間環境学部)
顧問教員：楠 勝範(人間環境学部教授)

「MHW+90 My Heart Will go on」

学生代表：角 一孝(人間環境学部)
顧問教員：楠 勝範(人間環境学部教授)

「追浜こみゆに亭&ワイナリーリニューアルプロジェクト」

学生代表：室橋 彩乃(人間環境学部)
顧問教員：水沼 淑子(人間環境学部教授)

「Smile to Smile」

学生代表：池田 望(人間環境学部)
顧問教員：楠 勝範(人間環境学部教授)

関東学院大学礼拝堂 プレミアムコンサートの開催

5月28日(水) 本学金沢八景キャンパス礼拝堂において、アンサンブルロフトウキョウによる「関東学院大学礼拝堂プレミアムコンサート」が開催されました。

当日は、学院関係者並びに、学生や一般の方が多数来場されました。



アンサンブルロフトウキョウは、フルート奏者の金昌国氏を中心に、多方面で活躍する音楽家によって結成されたアンサンブルで、曲目に応じて、その都度、編成を変えて演奏を行うという特徴があります。本コンサートでは、シューベルト作曲の『弦楽三重奏 変ロ長調 D471』、モーツァルト作曲の『フルート四重奏曲 ハ長調 K・285b』など計4曲が演奏されました。各曲の演奏前には、メンバーによる作曲家のエピソードや、演奏曲が完成するまでの経緯や時代背景などの解説をしていただき、1曲1曲の調べを堪能することができました。最後の曲の演奏が終わった後、礼拝堂はアンコールの拍手と鳴り止まない喝采に包

まれ、幕を下ろしました。

インターナショナルシアター カンパニー・ロンドンによる 英語劇『ハムレット』を上演

5月30日(金)金沢公会堂において、インターナショナルシアターカンパニー・ロンドン(ITCL)による日本公演『ハムレット』英語劇が行われました。

同日は小雨が降る中、学生や学校関係者をはじめ300人を超える多くの方が観劇されました。また、国際的に活躍する英国劇団の優雅な演技と音楽に多くの観客が魅了されました。

この度のインターナショナルシアターカンパニー・ロンドンの春秋2回公演は、関東学院創立125周



年記念事業として、関東学院主催 大学文学部英語英米文学科及びシェイクスピア英語劇実行委員会協賛などの体制で開催しています。

秋公演は、オスカー・ワイルド原作『カンターヴィルの幽霊』を11月20日(木)に上演します。

なお、大学シェイクスピア英語劇は、『Love's Labour's Lost』恋の骨折り返しを2008年12月5日(7)日に神奈川県民共済みらいホールにて上演します。

シンポジウム「カンボジア王国 における平和の回復と市民の 役割」を開催

「カンボジア王国における平和の回復と市民の役割」と題したシンポジウムが関東学院創立125周年記念事業及び小田原市の地域文化交流・社会貢献事業として小田原キャンパスにおいて6月14日(土)に開催されました。

シンポジウム第1部演題Ⅰ「市民の立場から見たUNTACの統治」では、UNTAC(国際連合カンボジア暫定統括機構)の活動と日本からの支援がカンボジアの平和の礎になったこと、演題Ⅱ「難民として、またクメール人として見たカンボジア平和回復における市民の役割」では、ポルポト支配時代には耳を疑うほどの悲惨な出来事があったこと等を通じ、改めてカンボジアという国を理解できたこと、演題Ⅲ「民間支援の大切

さNGO活動を通して」他国の民間人が混乱した国の法律を作成する苦勞を目的にしたり、民間支援の重要性を認識できたこと、演題Ⅳ「国をバックに持たない法整備支援の大切さ」経験を通して」では、国のそれぞれの特質と歴史の過程を理解し、民間での法整備支援のあり方の必要性を認識できたことなど、多くを学ぶことができました。

また、第2部のパネルディスカッションにおいては、「カンボジア王国の過去・現在・未来」というテーマで、カンボジアの忌まわしい過去、現在の教育の困難さ、未来へ向けての課

題等が話され、日本の官民からの支援の重要性を参加者全員で認識し、今後の更なる支援が必要不可欠であることを学ぶなど、とても有意義な講演会になりました。

【講演者】

- アン・エントン氏(カンボジア弁護士養成学校校長・弁護士、元カンボジア弁護士協会会長)
- 奥澤俊氏(PICT Cambodia 社長・通訳)
- 木村晋介氏(弁護士、日本・カンボジア法律家の会共同代表)
- 足立昌勝教授(本学法学部教授)

“Hamlet” by the International Theater Company London

“Hamlet” was performed by the International Theater Company London on May 30, Friday, at Kanazawa Public Hall. More than 300 people, including students and those involved in Kanto Gakuin, gathered to see the play. Many viewers were impressed by the graceful performance and music by the troupe, which performs internationally. In November this fall, this troupe will play “The Canterville Ghost” by Oscar Wilde.

Symposium “Restoration of peace and roles of citizens in the Kingdom of Cambodia”

A symposium entitled “Restoration of peace and roles of citizens in the Kingdom of Cambodia” was held on June 14, Saturday, at Odawara Campus as one of the 125th Anniversary Projects and as a regional cultural exchange/social contribution project of Odawara City. The symposium addressed interesting subjects such as UNTAC activities, assistance to Cambodia from Japan, citizens’ roles in restoring peace in Cambodia, and Cambodia under the Pol Pot regime. Following the symposium was a panel discussion where panelists discussed perspectives on “The past, present, and future of the Kingdom of Cambodia.”

[Kanto Gakuin University] Student-organized Social Contribution Projects

A contest of “Social Contribution Projects” organized by students with participation by both faculty and students under the basic theme “Serve the World 21” will be held as one of the 125th Anniversary Projects. This is to encourage students to plan activities to contribute to the development and interchange in today’s international society. Applications will be accepted over the course of three periods. The contest will provide students with an opportunity to ask themselves what is social contribution and how they can contribute to society in the present day. Activities in any fields will be accepted.

Premium Concert held at the KGU Chapel

The “Premium Concert” by “Ensemble of Tokyo” was held on May 28, Wednesday, at the chapel on the Kanazawa Hakkei Campus. “Ensemble of Tokyo,” led by flutist Shokoku Kin, consists of musicians from various genres. Its members change according to the pieces of music performed. At the Premium Concert, they played four pieces from Schubert and Mozart. The performance ended with ceaseless applause.



[Kanto Gakuin Mitsuura Junior and Senior High Schools] Kyushu Study Tour
 Junior students at Kanto Gakuin's Senior High School went on the annual study tour to Kyushu. They were divided into three groups on the first and second days: one group visited Hirado, another visited Fukue-jima, and the other went to Aso. On the third day, they joined together at Nagasaki. Before the tour, they watched videos on atomic bombs with their parents and studied the history and culture of Nagasaki. Students were deeply shocked when they visited Nagasaki Atomic Bomb Museum and listened to stories told by atomic bomb survivors about what they had experienced. Thanks to the cooperation and support from many people, this year's study tour was quite meaningful for all.



高2 研修旅行
 今年度も研修旅行が5月13日(火)～17日(土)の4泊5日で実施されました。
 この研修旅行に向け、生徒たちは高校1年生のときから長崎の歴史や文化を調べるなどの事前学習を進めてきました。また、研修旅行直前の学年懇談会では、長崎の原爆についての映像を生徒と保護者が共に鑑賞しました。原爆のもたらす恐怖・悲しさ、そして、多くの人の人生を一瞬で変えてしまった事実、また被爆後における人々の苦しみを、その映

六浦中学校 高等学校

高二学年担当 鈴木 一広

像により更に深く感じ、長崎へと出発しました。
 生徒たちもこの研修旅行を待ち望んでいたでしょう。出発の朝の関東地方は生憎の雨にも関わらず、生徒たちは晴れ晴れとした表情で羽田空港に集合しました。研修旅行の前半は、A(平戸)・B(福江島)・C(阿蘇)の3コースに分かれて施設見学や体験学習などを行うため、A・Bコースは長崎空港に、Cコースは熊本空港へ向け旅立ちました。初めて飛行機に乗った生徒もいたようで少し興奮した生徒もいましたが、空の旅を存分に楽しんでいる様子でした。
 現地は関東地方と打って変ったの快晴で、研修旅行初日として最高の天候に恵まれスタートできました。コースごとの研修では、その土地の施設や教会などを見学すると共に、すゝめ作り・陶芸・豆腐作り・珊瑚加工・かまぼこ作り・田植えなどの体験学習を行いました。「身のまわりの自然を利用し、生活や産業に役立てていること、そして、何よりもその自然を守り大切にしていることを学ぶことができました。」(生徒パンフレットより)という感想もあり、生徒たちにとって貴重な体験になったと感じています。

3日目の長崎市から、A・B・Cコースは合流しました。ここでは長崎平和公園を見学し、被爆者の方による講話を伺い、原爆資料館内を見学しました。この研修の中で生徒たちはとりわけ強く感じるものがあつたようにみられます。「医学も進歩してより多くの人を助けることができているのに、なんで人を助ける技術だけじゃなくて殺す技術も進歩させてしまったのかと思いました。今、自分達は食事に困ることはないし、働くこともないし、寝られなくて倒れることもない事を普通のことだと思つて生活をしているけど、それはすごく幸せなことだということを心から感じました。」「日本でも争いが起きそうになる日が来るかもしれない。でも、原爆が、兵器というものが、どんな被害を及ぼすのかを知っている私たちは、きつと思ひ留まることのできると思います。被爆者の方々



の平和への願いをいつまでも忘れないでいたいです。」(生徒パンフレットより)二度とこのような戦争による悲劇を起こさないために自分たちに何ができるのか、を深く考える事ができた貴重な時間になったと思います。
 4日目、班別自主行動で長崎市内を見学しました。班内で事前に見学場所や見学ルートを決め長崎市内を思い思いに過ごしていました。
 5日目の最終日は、ハウステンボスを見学した後、福岡空港から羽田へ帰郷し、各々の帰路につきました。
 総合の事前学習を含むこの研修旅行を通し、普段の生活では味わえない体験をし、感じることでできない思いを抱くことにより、生徒一人一人の心の中に何かが育まれたと強く感じています。そして、研修旅行を事故なく無事終え、有意義なものになった背景には、たくさんの人の支えや協力があつたことを忘れてほしいと思ひます。

中学校 高等学校

中学校教頭 河合 輝一郎

東京横浜独逸学園との交流

東京横浜独逸学園を訪問して

台湾の長栄高級中学校、オーストラリアのダボ・クリスチャンハイスクールなど、海外の学校との交流を私たちは積極的に取り入れていますが、国内でも東京横浜独逸学園との交流を4年前から持っています。今年の2月、今後のあり方について話し合いを持ちました。授業参観(美術・国語)、スポーツ大会への招待、中学校合唱コンクールの参加など相互に行事を確認して交流を深めていくことを再確認いたしました。そこで、独逸学園から5月17日の「EUジャパンフレンドシップ2008」にマリーチングバンド部を招待したいことと、6月7日に実施されるサッカーヨーロッパ選手権(国内にある外国学校十二校参加)への出場依頼が中学・高校のサッカー部にありました。サッカーは決勝戦まで駒を進め惜しくも二位でしたが、そこで前サッカー

僕たちサッカー部は独逸学園で貴重な体験をしました。6人制のサッカーの成人の部に出場し、ドイツやスイスの人たちとサッカーという形で交流しました。僕たちは「遊びだから楽しんでやれ」と言われていたが、他のチームは本気で勝ちにきていました。そこで次第に僕らも本気になり最初は1-0で敗けましたが次は4-3で勝ち予選を2位で通過し準決勝は8-1で勝ち、決勝に無事に駒を進めました。
 決勝までのあいている時間に素敵な人に出会いました。日本代表前監督のオシムさんです。退院後間もないのに握手した手は予想以上に力強かつたです。たくさんの人が写真や握手を求めなな誰にもイヤな顔を見せずとてもいい人でした。僕が「I LOVE YOU」と言うと「それは君のガールフレンドに言え。誰にで



も言つていい言葉じゃない」と答えてくれかつたよかつたです。またオシムさんに会えた仙田先生の喜び方がとても無邪気で少年のようでした。オシムさんに会えて、気合いを入れて臨んだ決勝は残念ながら3-2で負けてしまいました。悔しさは残

りましたが、ドイツ人の小さい子供とバスケットボールの取材を受けたけど翌日の新聞には全くのらなかつたり、テレビ放映に背中だけ映つた敵な1日になりました。広報部の長沼君の両親にもいろいろお世話になりこの企画を運営して下さいました。ありがとうございます。

[Kanto Gakuin Junior and Senior High Schools] Exchange programs with Deutschen Schule Tokyo Yokohama
 Kanto Gakuin Junior and Senior High School has been organizing exchange programs with Deutschen Schule Tokyo Yokohama (DSTY) for the past four years. Students visit each other's school on various occasions, for example, to observe classes (art, Japanese/German), join sports events, and perform at the junior high school chorus contest. Kanto Gakuin's marching band was invited to perform at DSTY on May 17 for a program during the EU-Japan Friendship Week 2008. On June 7, the football team was invited to play at the European Football Competition. Although the team finished second, they were happy to meet Japan's former national football team coach, Ivica Osim.

[Kanto Gakuin Mitsuura Kindergarten]
At the new farm field
 A small farm field for our kindergarten children has been made on KGU's property at Oppama with the collaboration of many people involved with the kindergarten. In May, a groundbreaking ceremony was held. After lots of struggle to dig the soil, children made rows and planted seedlings of sweet potatoes. They prayed to God for protection of the plants so that they will grow bigger. It was a moment when the children could not only feel the mystery of life but also appreciate the importance of life as well.



今では葉もすっかりとして苗も太くなりました。

[Kanto Gakuin Noba Kindergarten]
Weaving experiences at kindergarten into daily life
 In an overnight program, five-year olds went all the way to Hayama in July by train and then by bus. They started preparing for this program in April in their group activities. First, they built friendship with each other. In May, children went to the University chapel with their parents by train from the kindergarten. On their way to the chapel, they had to change trains. On the Play Day in June, they made T-shirts with their parent to be worn during the overnight program. They also made a cypress chair. Every activity at kindergarten is well designed to be woven into their daily lives.



幼稚園生活です。

六浦幼稚園
 新しい畑で…
 大学の追浜校地に幼稚園の小さな畑ができました。様々な方のご理解とご協力を得て完成した大切な畑です。5月の気持ちのよい日、子ども達と大学の先生と共に畑の畝入れ式を行いました。畑に入り、シャベルで固まっている土を柔らかくしていくのですが、初めての経験に同じところばかり

主任 鈴木 直江

も達は四苦八苦していました。何とか掘り起こせた畑に畝を作り、後日友達とさつま芋の苗を植え「大きく祈りをしました。その際、大学の先生もいてくださって「お芋の苗はどのように植えたらいい?」「お芋はどのように育て大きくなると思う?」と聞かれました。子ども達は一生懸命考えて答えていました。生命の不思議さに触れ、生命の大切を考えさせられた時でした。次の週から、年長組の子ども達は畑に行つて苗の様子を見たり草むしりをして世話をしています。また、大学の先生に草は小さなうちに抜かないと後で困ることや水はあまりやらなくていいことを教わり、「草の赤ちゃん見つけた!」と言いながら丁寧に草むしりをしていきます。初めは小さくて細かった苗も、



り掘ってしまったりどのように入力していいのかかわからず掘ることができなかつたり:子ども達は四苦八苦していました。何とか掘り起こせた畑に畝を作り、後日友達とさつま芋の苗を植え「大きく祈りをしました。その際、大学の先生もいてくださって「お芋の苗はどのように植えたらいい?」「お芋はどのように育て大きくなると思う?」と聞かれました。子ども達は一生懸命考えて答えていました。生命の不思議さに触れ、生命の大切を考えさせられた時でした。次の週から、年長組の子ども達は畑に行つて苗の様子を見たり草むしりをして世話をしています。また、大学の先生に草は小さなうちに抜かないと後で困ることや水はあまりやらなくていいことを教わり、「草の赤ちゃん見つけた!」と言いながら丁寧に草むしりをしていきます。初めは小さくて細かった苗も、

野庭幼稚園
 経験を訪いで
 年長児のお泊り会は、7月葉山まで電車とバスを乗り継いで出かけます。4月よりグループ活動を通してその準備は始まります。小グループの中で「自分」の存在が認められ、「友達」との関係がクロスさせていきながら関係が深めていきます。保育者は子ども自身がどうしたいのかを主張していく事・お互いの考えや想いの違いに気づいていく事への配慮を心がけており、自分と考えが違っても「へんだよ」とはならず「そういう意見もあるよね」と思えるように寄り添います。また、つまずきや困難に出会った時にもくじけず「なんとか大丈夫!」と思える逞しさも経験として促していきます。

主事 小高 千恵



子ども達の日々の生活にプラスして行事があります。織物で糸の色や太さを替える様に、園の行事も日常の中に織り込まれていきます。素材としても、作品としても素晴らしい幼稚園生活です。



6月2日、ハワイのカメハメハ・ミドル・スクールの歌と踊りが私たちを魅了した。ハワイの伝統文化を守り続ける中高生には皆、ハワイ人の血が流れている。そして、伝統の歌と言葉とフラとを守り続けている。英語による5年生のお祈りと6年生の歓迎の言葉と全校児童による二つの歌で交流会は始まった。続いて『ウメケ』というセレモニー。名取俊夫校長がスイートとコーヒートとレイを受け取った。「みんなで食べ物を分け合えば家族である」というハワイの儀式である。そして、いよいよカメハメハ・ミドル・スクールの演奏が始まった。青と茶色の

アロハ、緑のハワイ伝統の衣装は、ハワイの海と火山と植物を表しているようだ。美しいハーモニー、ハワイ語の伝統的な詠唱、ウクレレとギターとの演奏と歌に小学生たちは自然と手拍子を打ち、体を揺らしていた。フラの流れるような踊り、言葉を告げているような手と腰の動きは、本物のハワイアンであった。何より美しかったのは、歌い踊っている時の笑顔だ。心からハワイを、そして、フラを愛しているのだろう。6年生がお礼の言葉を英語で述べ公演は終わった。



アロハ、緑のハワイ伝統の衣装は、ハワイの海と火山と植物を表しているようだ。美しいハーモニー、ハワイ語の伝統的な詠唱、ウクレレとギターとの演奏と歌に小学生たちは自然と手拍子を打ち、体を揺らしていた。フラの流れるような踊り、言葉を告げているような手と腰の動きは、本物のハワイアンであった。何より美しかったのは、歌い踊っている時の笑顔だ。心からハワイを、そして、フラを愛しているのだろう。6年生がお礼の言葉を英語で述べ公演は終わった。

小学校

教頭 石塚 武志

[Kanto Gakuin Primary School]
Experience of Hawaiian traditional culture
 On June 2, songs and dances by students from Kamehameha Middle School captured our hearts at an exchange program. The program started with a welcome address in English by a fifth grader, followed by two songs sung by all the students. A ceremony called "umeke" was then held. In the performance, Kamehameha Middle School students, some in blue and others in green Hawaiian traditional costumes, sang songs in the Hawaiian language and played ukuleles and guitars with beautiful harmony. Elementary school children spontaneously clapped their hands and moved their bodies to the music. At the end of the performance, a sixth grader thanked these guests in English.

ハワイの伝統文化にふれて (125周年記念事業)

六浦小学校

教頭 内田 光生

[Kanto Gakuin Mitsuura Primary School]
Sports Day
 The Sports Day event this year was postponed twice due to rain and it was unfortunate that we did not have as many observers as usual. From this year, it was decided to offer a prayer also at the closing ceremony. Rendering thanks to God for the cooperation among all the participants, we were able to make our sports day meaningful. The most popular event this year was "cavalry battles" by fifth and sixth graders.

運動会

私がこの学校に勤めて23年目になりますが、今年の運動会が初めてのことがありました。それは、運動会が2回雨のために順延になったことです。本校の運動会は、5月第4週の土曜日に行われます。雨天の時は、次週の火曜日になります。私がこの学校に勤めて、数回火曜日に延期されたことはありましたが、今回は、初めて水曜日になりました。



例年に比べ、見学者が少なかつたことが残念です。今までは、開会式の時だけお祈りをしていましたが、今年から閉会式でもお祈りをしていきます。今年から閉会式でもお祈りをしていきます。今年から閉会式でもお祈りをしていきます。



関東学院同窓会

会長 大矢 秀臣



学報32号でご紹介申し上げたように、現在関東学院同窓会は、燦葉会(大学)・香葉会(短大)・橄欖会(中学校高等学校)・六葉会(六浦中学校・高等学校)・シオン会(六浦小学校)・たんぼぼの会(小学校)の六同窓会がそれぞれの学校を支えるべく活動をし、同時に学校法人関東学院と連携をとりながら母校発展に

微力ながら寄与しております。



母校、関東学院は来年初立125周年の節目を迎えます。同窓会としても何か記念なるものを作成しようと考えております。今年度の代議員会も終了し、二部役員交代もあり、気持ちも新たに母校発展に寄与すべく活動を開始しております。

燦葉会

会長 永嶋 孝彦

燦葉会は関東学院大学卒業生同窓会で設立78年の歴史と会員9万4500名を擁します。本会は大学の精神に則り、会員相互の親睦と向上、母校の充実発展に寄与することを目的とし、代議員会・幹事会・部会によって運営されております。活動は本部、11部会、46地方支部が主体となり活発に展開しております。

大学、在学生の活動の充実と強化のため2種の奨学金制度、ラグビー部に代表される運動部活動、ビジネスプランコンペ、シェイクスピア英語劇等の文化活動を支援しております。

燦葉会は取分け来年初迎える学院の創立125周年記念事業を大学・学院と共に取り組んでいます。具体的には「募金」「記念事業」の特別委員会を設置し成功を期すると共に、強く新しい関係を構築し大学、燦葉会の更なる発展に取り組んで参ります。



香葉会

会長 山口 佳子

「香葉会」は、後輩に出来るだけの支援を考えて止まない会として存在したいと常に考えています。またいつも同窓生の心の拠りどころとしても存在をしたいと思います。

現在の活動は、青春の学び舎から、テーマとしています。散策の企画は学校に近いけれども行っていない、学校に因縁があるが行っていない場所を選びます。今までの例は年末に、山手外人墓地周辺の西洋館で世界のクリスマス巡り、10、11月ごろに金沢文庫に在る称名寺、学生寮のあった薬山の別荘巡り、卒業生吉屋さんを偲ぶ吉屋信子邸中心の鎌倉歩き等があります。定期的にあるものとして日本画と陶芸教室があります。2009年関東学院は125周年を迎えます。その記念事業として関内メディアセンターでの作品展を計画しています。教室で学ぶだけでなく展示したいという方からの連絡をいただきたいと思います。

卒業生それぞれのいきかたを垣間見る事が出来れば最高です。ともに125周年をお祝いしたいと思います。

関東学院同窓会

・燦葉会(さんようかい)
—大学同窓会—
〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1
☎045-784-0310

・香葉会(こうようかい)
—女子短期大学同窓会—
〒236-8503 横浜市金沢区六浦東1-50-1
☎045-787-0678

・橄欖会(かんらんかい)
—中学校高等学校同窓会—
〒232-0002 横浜南区三春台4番地
☎045-231-0134

・六葉会(ろくようかい)
—六浦中学校・高等学校同窓会—
〒236-8504 横浜市金沢区六浦東1-50-1
☎045-781-2525

・たんぼぼの会
—小学校同窓会—
〒232-0002 横浜南区三春台4番地
☎045-241-2634

・しおん会
—六浦小学校同窓会—
〒236-0037 横浜市金沢区六浦東1-50-1
☎045-701-8285

橄欖会

会長 大矢 秀臣



ならびに活用方法が検討されておりますが、橄欖会としては二日も早くこの建物が復活するよう、今期の最重要課題として内外にアピールしてまいります。

六葉会

会長 永野 肇

今年度の活動の大きなテーマは、学院創立125周年記念事業の一環として母校の2号館(理科館)建替工事に対する募金活動です。卒業生にとって、校舎は大切な思い出の一つです。懐かしい校舎が消えるのは、さびしい思いもありますが、より充実した設備の中でより良き教育がなされることを確信しています。この厳しい社会情勢の中で、六葉会の目標額3000万円は簡単ではありませんが、記念事業が達成されることを願っています。

その他、運営面では、卒業生支援、母校支援、企画、広報など委員会活動への積極的な取り組みです。具体的内容として、機関紙の発行、ホームカミングデーの実施、母校六浦祭への参加、ゴルフ大会などを予定しています。



たんぼぼの会

会長 木下 利夫

たんぼぼの会は、卒業生の一人一人がたんぼぼの綿毛の様に広い世界に飛んで行き種をまくという意味でつけて頂いた名前です。会員は12才の若人からそろそろおじいちゃん、おばあちゃんと呼ばれる方々まで、親子三世同居の家族みたくです。総会や、クリスマス礼拝のレセプションで

初めて会う会員同士も、和気あいあいと楽しいひとときを過ごしています。そしてそのたんぼぼの会も関東学院の全同窓会の集まりに参加しますと、関東学院一家の末っ子になった気がします。

創立125周年を迎えるにあたり、学院の記念募金事業への協力を始め、学院の全同窓会で行う記念事業に参加し、一生懸命協力していきたいと思っています。

(文・副会長 佐藤 由子)

しおん会

会長 山田 篤

「シオン」とは、聖なる地の名称であると共に、心の清らかな者が集う所という意味があります。「しおん会」の名前にはそんな思いが込められており、現在、4360名の卒業生が名を連ね、各分野にて活躍をされています。

さて、母校は、関東学院創立125周年記念事業の一環として、校内及び、教育環境の整備、そして、かねてより支援活動を続けている、タイティワタ村への更なる支援拡充等の計画を立てております。しかし、これらを実現するには、多くの皆様のご尽力が必要な状況です。この事を一人でも多くの卒業生へ周知することが現在のしおん会の急務と捉え、連絡手段の充実、会報紙の充実に努力しております。

また、再来年(2010年)、母校は創立60周年を迎えます。この記念すべき節目には、第5回ホームカミングデーを盛大に開催し、母校を祝福したいと思っております。

Kanto Gakuin's Dosokai

Kanto Gakuin will celebrate its 125th anniversary next year. Its alumni are considering preparing something to commemorate the occasion. After its board of representatives meeting was over and most of the board members were replaced, the alumni association has renewed its determination to contribute to Kanto Gakuin.

Sanyoh-kai

Sanyoh-kai, the alumni association of Kanto Gakuin University has 94,500 members. Hoping to improve and enhance the activities of the university and its students, the association supports two scholarship programs, the rugby program and other sports club activities, the business plan competition, and cultural activities such as performances of Shakespeare's plays. Sanyoh-kai has started a fundraising project for the 125th anniversary and has also established a special committee for commemorative projects. The alumni hope to establish a new and closer relationship with the university and seek further development of the university and Sanyoh-kai.

Kohyoh-kai

Kohyoh-kai, offers support programs for its members and students. The current theme of its activities is "Memories from school days," under which short excursions have been arranged. In one of such excursions, participants visited houses and buildings of European style in the vicinity of the Yamate Foreign Cemetery on Christmas Day to enjoy the Christmas atmosphere. On another occasion, participants visited Shomyoji Temple at Kanazawa-bunko. There was also an excursion to summer homes at Hayama where a dormitory was located years ago. Kohyoh-kai also offers Japanese-style painting and pottery making classes regularly. The association is planning to hold an exhibition of paintings and pottery created in these classes at Kanto Gakuin's Kannai Media Center as one of the 125th anniversary projects.

Kanran-kai

Kanto Gakuin Junior and Senior High School will celebrate its 90th anniversary. Kanran-kai has not made specific plans for this anniversary, but it is having discussions with the school on commemorative projects. Since a new school building was completed on the school site at Miharudai, the old main building for the junior high school has remained closed. With efforts in this term focusing on the restoration of this old building, Kanran-kai will seek cooperation from the school as well as external resources.

Rokuyou-kai

The primary activity of Rokuyou-kai for this year is fundraising for the reconstruction of Building #2 (Science Building) of Kanto Gakuin Mutsuura Junior and Senior High Schools. It is not easy to reach the target amount of 30 million yen, but we will make every effort to achieve the goal. Rokuyou-kai is also engaged in projects to support Mutsuura Junior & Senior High School and its graduates. In addition, it participates in activities of the Planning Committee and Public Relations Committee. These activities include the issuing of a journal, organizing homecoming days, participating in the Mutsuura Festival, and the hosting of golf tournaments.

Tampopo-no-kai

Members of Tampopo-no-kai range from 12-year-olds to grandfathers and grandmothers. Some may meet each other for the first time at annual assemblies or at reception of a Christmas service, but they always soon become friends and enjoy the occasion. We are ready to cooperate in various projects, including the fundraising for the 125th anniversary project and participation in projects organized by the Kanto Gakuin's Dosokai.

Shion-kai

Shion-kai currently consists of 4360 graduates. As part of the 125th anniversary project, Shion-kai is planning to organize a project to improve the school and educational environment and expand its support project in Tiwata Village in Thailand. In order to provide information on these activities to as many graduates as possible at the earliest possible time, a better system to facilitate prompt communication is being established and emphasis has been placed in making best use of our journal. The year 2010 will mark the 60th anniversary of Mutsuura Primary School. On this occasion, Shion-kai will hold the fifth homecoming day to celebrate our school's history.

学院役員・教職員人事

①所属 ②専門分野・担当科目 ③就任年月日 ④最終学歴 **新任教員**



山本 浩一
やまもと こういち
①中学校高等学校 教諭
②国語科
③2008年(平成20年)4月1日
④岡山大学教育学部



益田 克行
ますだ かつゆき
①中学校高等学校 教諭
②理科科
③2008年(平成20年)4月1日
④横浜市立大学大学院総合理学研究科



岩崎 啓自
いわさき けいじ
①中学校高等学校 教諭
②国語科
③2008年(平成20年)4月1日
④早稲田大学教育学部



山下 俊幸
やました としゆき
①人間環境学部 人間発達学科 講師
②小学校教職・教科(国語)
③2008年(平成20年)4月1日
④横浜国立大学大学院教育学研究科



藤田 三成
ふじた みつなり
①人間環境学部 人間発達学科 講師
②小学校教職・教科(算数)
③2008年(平成20年)4月1日
④新潟大学教育学部



池田 綾
いけだ あや
①小学校 教諭
③2008年(平成20年)4月1日
④日本体育大学体育学部



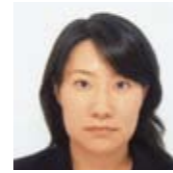
山本 典
やまもと つかさ
①六浦中学校・高等学校 教諭
②数学科
③2008年(平成20年)4月1日
④東京都立大学理学部



松本 佳介
まつもと けいすけ
①六浦中学校・高等学校 教諭
②数学科
③2008年(平成20年)4月1日
④千葉大学大学院自然科学研究科



鈴木 一広
すずき かずひろ
①六浦中学校・高等学校 教諭
②体育科
③2008年(平成20年)4月1日
④国土大学大学院スポーツシステム研究科



川田 華緒里
かわだ かおり
①六浦中学校・高等学校 教諭
②英語科
③2008年(平成20年)4月1日
④実践女子大学文学部

①所属 ②専門分野・担当科目 ③就任年月日 ④最終学歴 **新任契約講師**



田口 知世
たぐち ともよ
①六浦小学校 教諭
③2008年(平成20年)4月1日
④杏林大学保健学部



深瀬 浩枝
ふかせ ひろえ
①六浦中学校・高等学校 教諭
②英語科
③2008年(平成20年)4月1日
④関東学院大学大学院文学研究科



阿部 清彦
あべ きよひこ
①工学部 情報ネット・メディア工学科 助教
②プログラミング・CG・映像・音楽製作
③2008年(平成20年)4月1日
④東京電機大学大学院工学研究科/博士(工学)



大関 亮子
おおせき りょうこ
①専門職大学院 法務研究科 教授
②法律実務(民事系)
③2008年(平成20年)4月1日
④東北大学法学部



藤田 友也
ふじた ともや
①六浦小学校 教諭
③2008年(平成20年)4月1日
④北海道教育大学教育学部

①所属 ②就任年月日 ③最終学歴 **新任嘱託助手**



中島 修
なかじま おさむ
①工学部 建築学科 技師補
②2008年(平成20年)4月1日
③埼玉県立飯能高等技術専門校



高橋 大介
たかはし だいすけ
①工学部 情報ネット・メディア工学科 技師補
②2008年(平成20年)4月1日
③関東学院大学大学院工学研究科/博士(工学)



安藤 元基
あんどう もとき
①中学校高等学校 教諭
②社会科
③2008年(平成20年)5月1日
④明治大学大学院法学研究科



吉川 朋世
よしかわ ともよ
①野庭幼稚園 教諭
③2008年(平成20年)4月1日
④洗足学園短期大学幼児教育保育科



白土 真弓
しらと まゆみ
①野庭幼稚園 教諭
③2008年(平成20年)4月1日
④関東学院女子短期大学幼児教育科

学院役員・教職員人事

①所属 ②専門分野・担当科目 ③就任年月日 ④最終学歴 **新任教員**



宮崎 佳以
みやざき かい
①文学部 比較文化学科 講師
②フランス語およびフランス文化(文学・思想)
③2008年(平成20年)4月1日
④(ハリ)第7大学大学院テキストとイメージの歴史と記号学研究科/博士(テキストとイメージの歴史と記号学)



仙葉 豊
せんば ゆたか
①文学部 英語英米文学科 教授
②英文学
③2008年(平成20年)4月1日
④大阪大学大学院文学研究科



望月 正光
もちづき まさみつ
①理事
②2008年(平成20年)4月24日
③東京都立大学大学院社会科学部研究科 / 大阪府立大学 博士(経済学)



名取 俊夫
なとり としお
①理事
②2008年(平成20年)4月1日
③明星大学人文学部心理教育学科



吉沢 寿朗
よしざわ としお
①理事
②2008年(平成20年)4月1日
③早稲田大学第一理工学部



齊藤 毅憲
さいとう たけのり
①経済学部 経営学科 特約教授
②経営学
③2008年(平成20年)4月1日
④早稲田大学大学院商学研究科/商学博士



横森 豊雄
よこもり とよお
①経済学部 経営学科 教授
②商学
③2008年(平成20年)4月1日
④専修大学大学院経済学研究科



中村 友紀
なかむら ゆき
①経済学部 共通科目 講師
②英語
③2008年(平成20年)4月1日
④関西学院大学大学院文学研究科



新井 克弥
あらい かつや
①文学部 現代社会学科 教授
②情報・メディアおよび社会調査
③2008年(平成20年)4月1日
④東洋大学大学院社会学研究科



鈴木 正夫
すずき まさお
①文学部 比較文化学科 特約教授
②比較文化
③2008年(平成20年)4月1日
④大阪府立大学大学院文学研究科

①所属 ②専門分野・担当科目 ③就任年月日 ④最終学歴 **新任任期制教員**



佐野 慶一郎
さの けいいちろう
①人間環境学部 人間環境デザイン学科 教授
②環境学(環境保全分野)
③2008年(平成20年)4月1日
④静岡大学大学院電子科学研究所/博士(工学)



若松 加壽江
わかまつ かずえ
①工学部 社会環境システム学科 教授
②防災工学・都市防災計画
③2008年(平成20年)4月1日
④早稲田大学大学院理工学研究科



植村 みゆき
うえむら みゆき
①法学部 法学科 講師
②心理学
③2008年(平成20年)4月1日
④筑波大学大学院人間総合科学研究科



阿部 徳幸
あべ のりゆき
①法学部 法学科 教授
②税法
③2008年(平成20年)4月1日
④日本大学法学部

①所属 ②就任年月日 ③最終学歴 **新任嘱託助手**



鈴木 公基
すずき こうき
①人間環境学部 人間発達学科 講師
②心理学
③2008年(平成20年)4月1日
④筑波大学大学院心理学研究科/博士(心理学)



宮下 治
みやした おさむ
①人間環境学部 人間発達学科 准教授
②小学校教職・教科(理科)
③2008年(平成20年)4月1日
④東京学芸大学大学院連合学校教育研究科



小泉 秀夫
こいずみ ひでお
①人間環境学部 人間発達学科 教授
②教育学・教育方法論
③2008年(平成20年)4月1日
④東京大学大学院教育学研究科



出浦 照國
いでうら てるくに
①人間環境学部 健康栄養学科 特約教授
②臨床栄養学・病理学
③2008年(平成20年)4月1日
④信州大学医学部

学校法人 関東学院役員一覧

理事長	内藤 幸穂
学院長	森島 牧人
常務理事	星野 彰男 西野 芳夫 吉沢 寿朗
理事	松井 和則 富山 隆 落越 道彦 名取 俊夫 島田 正敏 帆苅 猛 秋山 薊二 望月 正光 山下 幸司 友康 井上 枝一郎 沖山 文敏 ドワイト P.デビットソン 澤野 芳久
監事	田野井 一雄 ロバータ L.スティブンス 天野 昭一 2008年(平成20年)8月20日現在

生涯学習センターの紹介

Lifetime Learning Center
Lifetime Learning Center provides many open seminars and qualification seminars in spring and fall terms on Kanazawa Hakkei Campus, Kanazawa Bunko Campus, Odawara Campus and Kannai Media Center. Among various classes, Korean and Chinese language classes have recently become popular. The Center is planning to provide advanced classes for these languages. Seminars leading to qualifications are also popular. New plans for this coming fall term are being developed. It is also planned to invite famous lecturers.

生涯学習センターでは、金沢八景キャンパス、金沢文庫キャンパス、小田原キャンパス、関内メディアセンターの各会場で、春・秋学期に多くの公開講座や資格講座を開催しています。

最近では韓国語や中国語などの語学のクラスも人気です。学生時代は語学が苦手であった方々もあると思いますが、生涯学習センターは語学を連続してコツコツと学ぶにはいい機会です。海外に旅行するにも、その国の言葉を少しでも知っていれば一層豊かな楽しい旅になります。上級のクラスも予定していくつもりです。受講者の方々にぜひ継続して頂きたいと思えます。

また資格の講座も人気です。不安定な時代に、資格を持つことは自分の人生の力となります。現役の学生諸君の関心も高いのです。秋学期も、新企画を打ち出します。ビックな講師にも登場してもらいます。生涯学習センターの案内をぜひご注文ください。



■秋学期公開講座一覧

実施場所	講座名
金沢八景キャンパス	健康スポーツ講座 ゴルフ
金沢八景キャンパス	パートナーとのより豊かな関わり方の秘訣
金沢八景キャンパス	日本の文化—大学で寄席を
金沢八景キャンパス	中国語講座(中級)
金沢八景キャンパス	実践ファイナンシャルプランニング講座
金沢八景キャンパス	日本の文化—伝統工芸・鎌倉彫(初級編)
金沢八景キャンパス	韓国語講座(初級)
金沢八景キャンパス	韓国語講座(中級)
金沢八景キャンパス	フランス語会話(初級)
金沢八景キャンパス	フランス語で読むジャンヌ・ダルク(中級)
金沢八景キャンパス	中国語講座(初級3)
金沢八景キャンパス	日本の文化—美しき能の世界
金沢八景キャンパス	暮らしの中の色彩講座
金沢八景キャンパス	ラッピングコーディネーター講座
金沢八景キャンパス	やさしいパソコン講座
金沢八景キャンパス	イタリア都市紀行5 ローマ
金沢八景キャンパス	文学の面白さ、日本語の素晴らしさ
金沢八景キャンパス	楽しい人生への処方箋6
金沢八景キャンパス	保育実践講座
金沢八景キャンパス	コンサートシリーズ第11回
金沢八景キャンパス	ラッピングコーディネーター講座(応用)
金沢八景キャンパス	韓国語講座(上級)
金沢八景キャンパス	負担増時代・家計をどう守る
金沢文庫キャンパス	健康スポーツ講座 ラグビー
金沢文庫キャンパス	第12回 英語公開講座(文学部)
KGU関内メディアセンター	哲学初歩・8 ニーチェに挑戦
KGU関内メディアセンター	第5回ポエトリー・リーディング—詩の朗読会
KGU関内メディアセンター	実用パソコン講座Ⅳ(ホームページビルダーV8)
KGU関内メディアセンター	ホスピタリティコーディネーター養成講座
KGU関内メディアセンター	やさしいパソコン講座
KGU関内メディアセンター	韓国語講座(初級)
KGU関内メディアセンター	ラッピングコーディネーター講座
KGU関内メディアセンター	平和について語る4
KGU関内メディアセンター	ラッピングコーディネーター講座(応用)
KGU関内メディアセンター	実用パソコン講座Ⅴ (EXCEL&POWERPOINT活用術)
KGU関内メディアセンター	ライブ(一斉授業)とEラーニングによるTOEIC講座
小田原キャンパス	フランスの文学と芸術

編集後記

学報No.36をお届けいたします。いかがでしたか。
今夏の北京オリンピックに出場される卒業生がその代表選手になられるまでのご苦労とオリンピックに出場されたことに対して敬意を表します。あらゆる経験と体感とおして、それらが以後の人生に生かされ、実りあるものとなることをお祈りいたします。さて、横浜山手に横浜バプテスト神学校が創設された1884年から数えて2009年に関東学院は125周年を迎えます。学院では、この125周年に向けた記念事業を展開しています。また、関東学院同窓会代議員会の場でも各校の同窓会から、創立125周年記念事業に向けた取り組みについて報告がございました。在校生をはじめ卒業生並びに教職員を含む学院関係者の皆様、本記念事業に対するご理解とご協力のもとで、積極的に参画されることを願っています。

学報を通して学院での出来事と教職員の教育・研究への取り組みや各界で活躍される卒業生の情報を少しでも伝えられればと思えます。今後も皆様にご愛読いただける誌面づくりを目指します。ご意見・感想をお寄せいただければ幸いです。
なお、この冊子では自然環境を配慮して、再生紙を使用しています。(総務部広報課)

学院や学報についてのご意見やご感想をお寄せください。
宛先 〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1 関東学院 法人事務局広報課 電話：045(786)7006
E-mail: kouhou@kanto-gakuin.ac.jp

学院役員・教職員人事

①所属 ②就任年月日 ③最終学歴

新任職員



狩野 満
かの みつる
①法学部 庶務課 書記
②2008年(平成20年)4月1日
③明治学院大学国際学部



中村 理恵子
なかむら りえこ
①広報室 書記
②2008年(平成20年)4月1日
③筑波大学第三学群社会学工芸類



木下 怜子
きのした れいこ
①庶務課 書記
②2008年(平成20年)4月1日
③関東学院大学人間環境学部



有路 沙織
ありじ さおり
①工学部 物質生命科学科 実験助手
②2008年(平成20年)4月1日
③関東学院大学工学部



田中 賢太郎
たなか けんたろう
①工学部 社会環境システム学科 技師補
②2008年(平成20年)4月1日
③大阪市立大学大学院工学研究科/博士(工学)

①所属 ②就任年月日 ③最終学歴

新任嘱託助手



鈴木 亮策
すずき りょうさく
①学生支援室 書記
②2008年(平成20年)4月1日
③立命館大学大学院社会学研究科



吉野 輝彦
よしの あきひこ
①学生生活課 金沢文庫キャンパス 書記
②2008年(平成20年)4月1日
③関東学院大学工学部



小池 哲史
こいけ てつし
①学生生活課 書記
②2008年(平成20年)4月1日
③関東学院大学経済学部



西村 美希子
にしむら みきこ
①法学部 教務課 書記
②2008年(平成20年)4月1日
③青山学院大学文学部



柴田 正臣
しばた まさおみ
①教務課 書記
②2008年(平成20年)4月1日
③法政大学工学部

①所属 ②就任年月日 ③最終学歴

新任嘱託職員



安部 具延
あべ とものぶ
①学生生活課
②2008年(平成20年)4月1日
③慶應義塾大学商学部



松尾 美幸
まつお みゆき
①経済学部 庶務課
②2008年(平成20年)4月1日
③東海女子大学(現東海学院大学)文学部



林 敏郎
はやし としろう
①生涯学習センター 運営課
②2008年(平成20年)4月1日
③京都外国語大学外国語学部



丸茂 美穂
まるも みほ
①企画調査課 書記
②2008年(平成20年)4月1日
③慶應義塾大学文学部



岸間 大輔
きしま だいすけ
①キャリア支援課 書記
②2008年(平成20年)4月1日
③日本大学生物資源科学部

新任契約職員

Employed and Retired Members List of Kanto Gakuin Personnel

- 3 New Members of the Board of Trustees
- 26 New Faculty Members
- 2 New Faculty Members Employed Temporarily
- 5 New Faculty Members Employed Contractually
- 4 New Assistant Faculty Members Employed Temporarily
- 10 New Office Clerks
- 1 New Office Clerks Employed Temporarily
- 5 New Contract Office Clerks
- 3 Retired Members of the Board of Trustees

①所属 ②退任年月日

退任役員

津田 宏之
つた ひろゆき
①理事
②2008年(平成20年)3月31日

清水 元
しみず はじめ
①理事
②2008年(平成20年)3月31日

畑中 康一
はたなか こういち
①理事
②2008年(平成20年)3月31日



佐藤 貴洋
さとう たかひろ
①文学部 庶務課
②2008年(平成20年)5月1日
③関東学院大学大学院文学研究科



竹内 律郎
たけうち りつお
①情報科学センター 運用課
②2008年(平成20年)4月1日
③東京法経学院法学部



配川 美代子
はいかわ みよこ
①学生生活課 金沢八景(室の木)キャンパス
②2008年(平成20年)4月1日
③放送大学教養学部

主な学校行事予定(10月～3月)

10

大学	高等学校	六浦高等学校	中学校
6(月) 学院創立記念日(授業日) 11(土) 学院創立記念式典 30(木) 休講 (木曜日の授業日数調整のため) 31(金) 大学祭準備(休講)	6(月) 学院創立記念日 11(土) 学院創立記念式典 14(火)～17(金) 中間試験 17(金) 高1進路適性検査 25(土) 高3記述模試 31(金) 高校宗教改革記念礼拝 かんらんさい準備(終日)	3(金) 学院創立記念礼拝 (秋季特別伝道礼拝) 6(月) 学院創立記念日(平常授業) 8(水)～10(金) 中間試験(高3) 11(土) 学院創立記念式典 14(火) 高3答合せ 14(火)～16(木) 中間試験(高1・2) 16(木) ボランティア活動 19(日) 高3模試 24(金)～25(土) 六浦祭 31(金) 宗教改革記念礼拝	6(月) 学院創立記念日 11(土) 学院創立記念式典 14(火)～17(金) 中間試験 30(木) 中学宗教改革記念礼拝 31(金) かんらんさい準備(終日)

11

1(土)・2(日) 大学祭(休講) 3(月) 大学祭後整理 24(月) 振替休日(授業日)	1(土) かんらんさい(非公開) 3(月) かんらんさい(公開) 4(火) かんらんさい(後片付け) 5(水) 振替休日 (かんらんさい11/3文化の日) 6(木) 高2記述模試 12(水) 高校県下一斉学力テスト 20(木) 高校感謝祭礼拝 22(土) 香柏会講演会父親の集い 27(木) 高校生徒会役員選挙	16(日) 高2模試 19(水) 収穫感謝礼拝 20(木) 点灯式 21(金) 高2ダンス発表会	1(土) かんらんさい(非公開) 3(月) かんらんさい(公開) 4(火) かんらんさい(後片付け) 5(水) 振替休日 (かんらんさい11/3文化の日) 6(木) 中学学力テスト 19(水) 中学感謝祭礼拝 22(土) 香柏会講演会父親の集い 27(木) 中学生徒会役員選挙
---	--	---	--

12

8(月) 大学クリスマス礼拝 23(火) 冬期休業開始 [学部] 24(水)～29(月) 冬期集中講義期間 (但し、土・日曜日を除く)	1(月) ツリー点灯式 8(月)～11(木) 期末試験 11(木) オーストラリア研修旅行 参加希望者の会 15(月) 答案返却日 20(土) クリスマス礼拝 キャンドルライト・サービス 21(日) 冬期休業開始 21(日)～27(土) 台湾研修 22(月)～26(金) 希望制冬期補習	3(水)～8(月) 期末試験(高1・2) 4(木)～8(月) 期末試験(高3) 11(木)～12(金) 答合せ 19(金) クリスマス礼拝 20(土) 終業式 23(火)～27(土) スキー・スノーボードスクール	1(月) ツリー点灯式 8(月)～11(木) 期末試験 11(木) オーストラリア研修旅行 参加希望者の会 15(月) 答案返却日 20(土) クリスマス礼拝 キャンドルライト・サービス 21(日) 冬期休業開始 22(月)～26(金) 補習 中学指名制冬期補習
--	--	--	--

1

[学部・法科大学院] 4(日) 冬期休業終了 5(月) 秋学期授業再開 17(土) 大学入試センター試験(補講日) 18(日) 大学入試センター試験 19(月) 秋学期授業終了[学部] (但し、土曜日の最終授業は1月24日) 24(土) 秋学期授業終了[法科] 20(火)～23(金)・26(月) 補講及び秋学期定期試験 27(火)～2/2(月) 秋学期定期試験 25(日)・2/1(日)・2/3(火) 定期試験予備日 [大学院] 4(日) 冬期休業終了 5(月) 秋学期授業再開 17(土) 大学入試センター試験(休講) 18(日) 大学入試センター試験 27(火)～30(金)・2/2(月) 補講期間 31(土) 秋学期授業終了	8(木) 3学期始業礼拝・授業開始 17(土)・18(日) センター試験 27(火) 第90回中高創立記念礼拝 29(木) 高1記述模試	8(木) 始業式 9(金)～29(木) 高3特別授業 23(金) 生徒総会 29(木) 高校卒業礼拝	8(木) 3学期始業礼拝・授業開始 27(火) 第90回中高創立記念礼拝
--	---	---	---

2

[学部・法科大学院] 1/27(火)～2/2(月) 秋学期定期試験 1/25(日)・2/1(日)・2/3(火) 定期試験予備日 冬期集中講義期間 (但し、土・日曜日を除く) 12(木)～14(土) 追試験[学部] 12(木)～14(土) 追試験及び再試験[法科] [大学院] 1/27(火)～30(金)・2/2(月) 補講期間	7(土) オーストラリア研修旅行 説明会 10(火) 高校バプテスト ミッションデー礼拝 19(木) 高2マーク模試 26(木) 高校卒業礼拝	3(火) 高1・2模試	7(土) オーストラリア研修旅行 説明会 9(月) 中学バプテスト ミッションデー礼拝 13(金) 中学合唱コンクール
---	--	-------------	---

3

24(火) 卒業式・学位授与式 31(火) 秋学期終了	2(月) 第61回高校卒業式 3(火)～6(金) 期末試験 10(火) 答案返却日 19(木) 終業礼拝 20(金) 春季休業開始 21(土)～24(火) スキー教室	2(月) 高校卒業式 5(木)～10(火) 期末試験(高1・2) 10(火) ボランティア活動 12(木)～13(金) 答合せ 19(木) 修了式	3(火)～6(金) 期末試験 10(火) 答案返却日 18(水) 中学卒業礼拝 19(木) 終業礼拝 20(金) 春季休業開始 21(土)～24(火) スキー教室
--------------------------------	--	--	--

Main Annual School Events(from October, 2008 to March, 2009)
The calendar of events held on the 9 campuses of Kanto Gakuin:
Kanto Gakuin University, Kanto Gakuin Senior High School, Kanto Gakuin Mutsuura Senior High School, Kanto Gakuin Junior High School, Kanto Gakuin Mutsuura Junior High School, Kanto Gakuin Primary School, Kanto Gakuin Mutsuura Primary School, Kanto Gakuin Mutsuura Kindergarden and Kanto Gakuin Noba Kindergarden.

六浦中学校	小学校	六浦小学校	六浦幼稚園	野庭幼稚園
3(金) 学院創立記念礼拝 (秋季特別伝道礼拝) 6(月) 学院創立記念日(平常授業) 11(土) 学院創立記念式典 15(水)～16(木) 中間試験 16(木) ボランティア活動 24(金)～25(土) 六浦祭 30(木) 宗教改革記念礼拝	4(土) 秋の屋外なかよし会 9(木) 学力テスト 10(金) 学院創立記念礼拝 11(土) 学院創立記念式典 16(木) 後期ぶどうの木発表会 21(火) 一般入試 25(土) オリブ祭 28(火) 3年生社会科見学 29(水) 6年学年懇談会	1(水) 後期始業式 2(木) 1,2年懇談会 3(金) 高学年遠足 6(月) 学院創立記念礼拝・6年懇談会 7(火) 低学年遠足・5年懇談会 10(金) 3,4年懇談会 11(土) 学院創立記念式典 14(火) 中学年遠足 18(土) 一般入試A日程面接試験 21(火) 一般入試A日程適正検査 25(土) 一般入試B日程面接・適正検査	9/29(月)～30(木) 保育参加 1(水) 子育て講演会 6(月) 学院創立記念日 8(水) 移動動物園 11(土) 学院創立記念式典 15(水) 誕生会 15(水) 入園要項配布 15(水) 入園説明会 18(土) 入園説明会 23(木) 秋の遠足 31(金) 親子劇場	6(月) 学院創立記念日 6(月) 移動動物園 7(火) 公開保育 11(土) 学院創立記念式典 15(水) 願書配布/入園説明会 16(木) 秋の遠足 20(月) わかば会講演会 27(月) バイブルクラス 29(水) 誕生会 30(木) 絵本展示会
8(土) 第2回学校説明会 18(火) 収穫感謝礼拝 20(木) 点灯式	5(水)～14(金) グループ・個人面談 8(土) 漢字検定 12(水) 5年生社会科見学 18(火) 4年生社会科見学 20(木) 収穫感謝礼拝 21(金) 漢字・計算テスト 28(金) 授業参観II(1～5年)	1(土) バザー 5(水) 冬服・冬時間開始 20(木) 収穫感謝礼拝 24(月) 神小サッカー大会 26(水) マラソン大会 30(日) アドベント礼拝I	1(木) 入園願書受付 4(火) クラス懇談会年中組 7(金) クラス懇談会年少組 11(火) クラス懇談会年長組 12(水) 誕生会 14(金) 絵本展示会 17(月) 収穫感謝礼拝 21(金) 避難訓練 25(火) アドベント	1(土) 新入児受付 6(木) 保育参加① 7(金) 保育参加② 10(月) 保育参加③ 11(火) 保育参加④ 12(水) 座談会 17(月) わかば会講演会 18(火) 収穫感謝礼拝 19(水) 収穫感謝訪問 26(水) 誕生会 27(木) ひとみ座人形劇② バイブルクラス
4(木)～8(月) 期末試験 11(木)～12(金) 答合せ 19(金) クリスマス礼拝 20(土) 終業式 23(火)～27(土) スキー・スノーボードスクール	5(金) アドベント礼拝I 12(金) アドベント礼拝II 15(月) 学院クリスマスコンサート 19(金) アドベント礼拝III 22(月) クリスマス礼拝 22(月) 終業式 22(月) 父母の会全体会 23(火) 冬期休業開始 24(水)～26(金) 補習	7(日) アドベント礼拝II 14(日) アドベント礼拝III 15(月) 学院クリスマス 21(日) アドベント礼拝IV 22(月) クリスマス礼拝 23(火) 冬期休業開始	3(水) おりぶ会クリスマス 10(水) 誕生会 12(金) 年長組集合写真 15(月) 学院クリスマスコンサート 18(木) クリスマス礼拝(年少中) 19(金) クリスマス礼拝(年長)	6(土) 2・3年生同窓会 10(水) 誕生会 15(月) わかば会クリスマス礼拝 学院クリスマスコンサート 19(金) クリスマス礼拝・終業式 20(土)～ 冬期コバの子クラブ (預り保育)開始
8(木) 始業式 17(土) 第3回学校説明会 23(金) 生徒総会	8(木) 始業式 9(金) 方面別集団下校 13(火)～30(金) 6年生特別時間割 14(水) 4年学年懇談会 15(木) 3年学年懇談会 16(金) 計算テスト 16(金) 新1年一日入学I 19(月)～31(土) 書き初め展 20(火) 5年学年懇談会 27(火) 1年学年懇談会 28(水) 2年学年懇談会 31(土) 中学年学習発表会	8(木) 授業開始・書き初め 9(金) 芸術鑑賞会 14(水)～16(金) スキー教室 24(土) 授業参観日・ アブラハムの会 30(金) 避難訓練	8(木) 3学期開始 9(金) 身体測定年長組 13(火) 身体測定年中組 14(水) 誕生会 15(木) 身体測定年少組 20(火) お餅つき 21(水) 一日入園 27(火) 子育て講演会 30(金) 交通安全指導	9(金) 始業式 13(火)・14(水) 身体測定 14(水) 座談会 16(金) おもちつき 19(月) わかば会 21(水)・22(木) CAPワークショップ 26(月) バイブルクラス 28(水) 誕生会 29(木) 避難訓練 30(金) 新入児1日入園
1(日) 中学入試A日程 2(月) 中学入試B日程 3(火) 中学学力試験 5(木) 中学入試C日程 20(金) 合唱コンクール	4(水) 新1年一日入学II 7(土) 漢字検定 12(木) 学力テスト 17(火)～22(日) 児童造形展 21(土) 低学年学習発表会 24(火)～3/6(金) 1～5年個人面談 25(水) 6年生社会科見学 26(木) 授業参観II(6年) 26(木) 6年学年懇談会	9(月) 夏時間開始 17(火)～22(日) 児童造形展 27(金) 音楽発表会	2(月)～6(金) 個人面談 18(水) 誕生会 18(水) 入園打ち合わせ 20(金) 卒業遠足	4(水) ひとみ座人形劇③ 13(金) 年長児卒業遠足 16(月) わかば会 面談週間(～20日) 23(月) バイブルクラス 25(水) 誕生会 27(金) 新入児保護者会
6(金)～10(火) 期末試験 10(火) ボランティア活動 12(木)～13(金) 答合せ 13(金) 個人写真撮影 (新2・3年生) 18(水) 中学卒業礼拝 19(木) 修了式	4(水) 卒業礼拝 5(木) 卒業記念バレーボール 6(金) 5年生社会科見学 16(月) 第53回卒業式 23(月) 終業式 23(月) 父母の会全体会 24(火) 春季休業開始	2(月) 新入生入学準備教室 3(火) 卒業礼拝 6(金) 6年生を送る会 18(水) 卒業式 19(木) 終業式・個人面談 23(月)・24(火) 個人面談	2(月) ひな祭りなかよし会 4(水) 誕生会 11(水) お別れ会 13(金) おりぶ会総会 17(火) 卒業式(年中参加) 18(水) 終業式	2(月) バイブルクラス 3(火) なかよし会会食 4(水) 座談会 9(月) わかば会総会 10(火) お別れ会 11(水) 誕生会 16(月) 終業式 17(火) 卒業式 18(水)～ 春期コバの子クラブ (預り保育)開始



左上、右下／大学ヨット部 左下、右上／大学ウインドサーフィン部

関東学院大学

☎045-781-2001(代)

●金沢八景キャンパス

☎045-781-2001

経済学部
工学部
人間環境学部
大学院（経済学研究科・工学研究科）
法科大学院

●金沢文庫キャンパス

☎045-786-7179

文学部
大学院（文学研究科）

●小田原キャンパス

☎0465-34-2211

法学部
大学院（法学研究科）

関東学院中学校高等学校

☎045-231-1001

関東学院小学校

☎045-241-2634

関東学院六浦中学校高等学校

☎045-781-2525

関東学院六浦小学校

☎045-701-8285

関東学院六浦幼稚園

☎045-781-0170

関東学院野庭幼稚園

☎045-845-0876

学校法人

関東学院

〒236-8501 横浜市金沢区六浦東1-50-1

法人事務局 ☎045-786-7028 (代)

<http://www.kanto-gakuin.ac.jp/>

環境に配慮して



この印刷物は大豆インキを使用しています。

古紙配合再生紙を
使用しています